（様式第 10）

愛医病管第 129 号
令和２年 10 月１日

厚生労働大臣　殿

学校法人愛知医科大学
理事長　　祖父江　元　　（印）

愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和１年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒480-1195　愛知県長久手市岩作雁又１－１
氏　　名	学校法人愛知医科大学

（注）　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

愛知医科大学病院

3　所在の場所

〒480-1195　愛知県長久手市岩作雁又１番地１ 電話（０５６１）６２－３３１１

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注）　上記のいずれかを選択し、番号に〇印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科			有　・　無
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	2消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
9感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11リウマチ科
診療実績			

（注）1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に〇印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科　②消化器外科　③乳腺外科　④心臓外科 ⑤血管外科　6心臓血管外科　⑦内分泌外科　8小児外科	
診療実績 小児外科は，消化器外科で診療実績としていること。	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科　②小児科　③整形外科　④脳神経外科　⑤皮膚科　⑥泌尿器科 ⑦産婦人科　8産科　9婦人科　⑩眼科　⑪耳鼻咽喉科　⑫放射線科　13放射線診断科 14放射線治療科　⑮麻酔科　⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4)歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科　2矯正歯科　③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	3 病理診断科	4 神経科	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
47床	床	床	床	853床	900床

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　　種	常　勤	非常勤	合　計	職　　種	員　数	職　　種		員　数
医　　師	481人	214人	548.6人	看護補助者	1人	診療エックス線技師		0人
歯科医師	12人	6人	12.1人	理学療法士	36人	臨床検査	臨床検査技師	66人
薬　剤　師	78人	3人	80人	作業療法士	15人		衛生検査技師	0人
保　健　師	0人	0人	0人	視能訓練士	8人		そ　の　他	0人
助　産　師	28人	0人	0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師		0人
看　護　師	986人	13人	992.77人	臨床工学士	19人	医療社会事業従事者		9人
准看護師	1人	0人	1人	栄　養　士	0人	その他の技術員		4人
歯科衛生士	5人	0人	5人	歯科技工士	2人	事　務　職　員		92人
管理栄養士	14人	0人	14人	診療放射線技師	62人	その他の職員		86人

（注）1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人　数	専門医名	人　数
総合内科専門医	25人	眼科専門医	11人
外科専門医	29人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	17人	脳神経外科専門医	9人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	15人
泌尿器科専門医	6人	麻酔科専門医	5人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	9人
		合　計	173人

（注）1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（　藤原祥裕　）　任命年月日　平成31年　4月　1日

医療安全管理室副室長

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	725.0人	12.0人	737.0人
1日当たり平均外来患者数	2497.8人	121.7人	2619.5人
1日当たり平均調剤数	3688.6剤		
必要医師数	215.5人		
必要歯科医師数	8.0人		
必要薬剤師数	46.1人		
必要（准）看護師数	457人		

（注）1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	968.97 m^2	鉄筋コンクリート	病床数	49床	心電計	㊒・無
			人工呼吸装置	㊒・無	心細動除去装置	㊒・無
			その他の救急蘇生装置	㊒・無	ペースメーカー	㊒・無
無菌病室等	［固定式の場合］　床面積 243.39m^2　病床数　18床 ［移動式の場合］　台　数　　台					
医薬品情報管理室	［専用室の場合］　床　積　16.11m^2 ［共用室の場合］　共用する室名					
化学検査室	566.47m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）生化学自動分析装置，検体検査自動化ｼｽﾃﾑ			
細菌検査室	149.69m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）微生物分類同定分析装置			
病理検査室	306.63m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）ﾗｲｶBONDⅢ,ﾗｲｶASP6025,ｻｸﾗﾃｨｯｼｭﾃｯｸﾌﾟﾘｽﾞﾏ			
病理解剖室	108.24m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）ﾊﾞｲｵﾊｻﾞｰﾄﾞ対策解剖台，臓器写真撮影装置，ﾎﾙﾏﾘﾝ希釈装置			
研究室	6,761.35m^2	鉄筋コンクリート	（主な設備）各種研究用機器（教育用機器）			
講義室	3,291.97m^2	鉄筋コンクリート	室数 20室		収容定員2,088人	
図書室	1,976m^2	鉄筋コンクリート	室数 2室		蔵書 数94,824冊程度	

（注）1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹　介　率	79.3%	逆　紹　介　率	53.6%
算出根拠	A：紹　介　患　者　の　数		21,606人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,706人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,105人
	D：初　診　の　患　者　の　数		31,143人

（注）1　「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
黒神聰	愛知学院大学	○	法律学に関する専門知識に基づいて，教育，研究又は業務を行っている者	有・無	1
鳥井彰人	瀬戸旭医師会		医療機関において医療安全に関する業務に従事した経験を持つ者又は医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	有・無	1
鈴木孝美	長久手市・副市長		医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等，医療を受ける立場から意見を述べることができる者	有・無	2
佐藤啓二	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有・無	3
若槻明彦	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有・無	3

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 ホームページ	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	39人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	26
2	筋萎縮性側索硬化症	21	57	特発性拡張型心筋症	8
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	0
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	12	60	再生不良性貧血	26
6	パーキンソン病	97	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	64
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	58	66	IgA 腎症	16
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	16
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	40	68	黄色靭帯骨化症	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	10	69	後縦靭帯骨化症	33
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	22
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	42	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	11
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	13	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	23
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	82
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	2
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	33	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	62
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	34
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	4
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1
34	神経線維腫症	15	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	12	90	網膜色素変性症	11
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬（汎発型）	7	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	12
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	10	95	自己免疫性肝炎	5
41	巨細胞性動脈炎	3	96	クローン病	71
42	結節性多発動脈炎	8	97	潰瘍性大腸炎	134
43	顕微鏡的多発血管炎	23	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	12	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	14	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	197	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	75	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	77	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	18	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	12	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	17	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	6	110	ブラウ症候群	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	9
113	筋ジストロフィー	1	163	特発性後天性全身性無汗症	15
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR－X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	1
215	ファロー四徴症	1	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	23	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	11
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	11	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	2
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	11
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトースー１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	49

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	323	芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	326	大理石骨病	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	3
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	0	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症	0
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	0
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0			

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算(2)
・歯科外来診療環境体制加算	・栄養サポートチーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・緩和ケア診療加算
・特定機能病院入院基本料(一般7対1、精神7対1)	・看護職員夜間配置加算
・臨床研修病院入院診療加算	・療養環境加算
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算(1)
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算(2)
・診療録管理体制加算(2)	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算	・精神科リエゾンチーム加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神科身体合併症管理加算
・医療安全対策加算(1)	・医師事務作業補助体制加算1
・感染防止対策加算(1)	・精神科急性期医師配置加算
・感染防止対策地域連携加算	・入院時支援加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・抗菌薬適正使用支援加算
・ハイリスク妊娠管理加算	・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準
・ハイリスク分娩管理加算	・早期離床・リハビリテーション加算
・退院支援加算(1) 地域連携診療計画加算	・
・地域歯科診療支援病院入院加算	・
・特定集中治療室管理料(2)	・
・救命救急入院料(3)(4)（充実度評価A、高度救命救急センター、小児加算）	・
・新生児特定集中治療室管理料	・
・新生児治療回復室入院医療管理料	・
・小児入院医療管理料(2)	・
・救急医療管理加算	・
・無菌治療室管理加算(1)	・
・患者サポート体制充実加算	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・透析液水質確保加算(2)
・糖尿病合併症管理料	・病理診断管理加算(2)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・口腔病理診断管理加算(2)
・がん患者指導管理料(1)	・外来緩和ケア管理料
・がん患者指導管理料(2)	・定位放射線治療
・がん患者指導管理料(3)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料(1)(2)(歯科)	・冠動脈CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・心臓MRI撮影加算
・在宅患者歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・強度変調放射線治療（IMRT）
・造血器腫瘍遺伝子検査	・CAD／CAM冠
・HPV核酸検出	・乳房MRI撮影加算
・検体検査管理加算(4)	・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る）
・遺伝カウンセリング加算	・骨移植術（軟骨移植術を含む）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植）（特殊なものに限る）））
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下肝切除術
・植込型心電図検査	・遺伝学的検査
・皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・長期継続頭蓋内脳波検査	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・神経学的検査	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・コンタクトレンズ検査料(1)	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・センチネルリンパ節生検	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術

・外来化学療法加算(1)	・腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。
・運動器リハビリテーション料(1)	・がん患者リハビリテーション料
・呼吸器リハビリテーション料(1)	・歯根端切除手術の注3
・脳血管疾患等リハビリテーション料（1）の初期加算	・経カテーテル大動脈弁置換術
・運動器リハビリテーション料（1）の初期加算	・ロービジョン検査判断料
・呼吸器リハビリテーション料（1）の初期加算	・口腔病理診断管理加算2
・医療保護入院等診療料	・保険医療機関間の連携による病理診断1
・一酸化窒素吸入療法	・検体検査国際標準検査管理加算
・歯科技工加算(1)及び(2)	・人工膵臓検査
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・人工膵臓療法
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び交換術，脊髄刺激装置植込術及び交換術	・腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
・人工内耳植込術	・人工腎臓
・乳がんセンチネルリンパ節加算(1)(2)	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）（高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるものに限る）	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）
・ペースメーカー移植術及び交換術	・皮膚移植術（死体）
・呼吸ケアチーム加算	・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算
・心大血管疾患ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料（1）	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・人工尿道括約筋植込・置換術	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	・小児鎮静下MRI撮影加算
・認知症専門診断管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・臓器移植後患者指導管理料	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・骨移植術	・1回線量増加加算（全乳房照射・前立腺照射）
・手術用顕微鏡加算	・緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
・補助人工心臓	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
・同種死体腎移植術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
・植込型骨導補聴器移植術及び交換術	・仙骨神経刺激装置植込術、仙骨神経刺激装置交換術（過活動膀胱に対して実施する場合）
・心臓ペースメーカー指導管理料　植込型除細動器移行期加算	・胸腔鏡下弁形成術
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・胸腔鏡下弁置換術

・胃瘻造設術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・脳波検査診断料1
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・精密触覚機能検査
・高エネルギー放射線治療　1回線量増加加算	・硬膜外自家注入
・HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・悪性腫瘍病理標本加算
・歯科口腔リハビリテーション料(2)	・骨髄微少残存病変量
・緑内障手術（治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・導入期加算２
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）	・腎代替療法実績加算
・経皮的冠動脈形成術	・画像診断管理加算（3）
・経皮的冠動脈ステント留置術	
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	
・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	
・ポジトロン断層撮影	
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	
・輸血管理料(1)・適正使用加算	
・画像誘導放射線治療加算（IGRT）	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	・
・骨髄微少残存病変量	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1.)臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床科病理症例検討会 35回 キャンサーボード 5回 CPC 12回／マクロ検討会 22回
剖検の状況	剖検症例数 22 例 ／ 剖検率 4.2 %

（注） 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
多発外傷時における白血球遺伝子発現プロファイル解析：T-iPS細胞療法の応用	武山直志	救命救急科	1,300,000	補 委	科研費
敗血症におけるInnate Lymphoid Cell の機能解析	津田雅庸	救命救急科	1,170,000	補 委	科研費
ICU関連筋力低下における骨格筋前駆細胞の動態解析: 間葉系幹細胞移植療法の応用	加納秀記	救命救急科	780,000	補 委	科研費
敗血症性獲得免疫障害：T細胞受容体遺伝子分析によるレパトア形成能の解析	丸地佑樹	救命救急科	650,000	補 委	科研費
造血細胞移植関連遺伝子多型機能に基づく免疫制御性ﾏｲｸﾛRNAの探索	高見　昭良	血液内科	700,000	補 委	学術振興会
ゲノム編集による*FLT3*変異改変ﾋﾄ白血病細胞の作製と新規治療法の探索	花村　一朗	血液内科	800,000	補 委	学術振興会
造血細胞移植の腸管免疫をToll様受容体で紐解く	内野　かおり	血液内科	800,000	補 委	学術振興会
家族性膝蓋骨無形成症の新規原因遺伝子の同定と疾患発症機序の解析	高見　昭良	血液内科	100,000	補 委	学術振興会
がん免疫抑制環境の改善に基づく新たながん免疫療法の開発に向けた基礎的研究	花村　一朗	血液内科	100,000	補 委	学術振興会
PBKが骨髄腫の悪性化に寄与する作用機序の解明と治療標的分子としての可能性の検討	花村　一朗	血液内科	50,000	補 委	学術振興会
再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象としたｲｷｻｿﾞﾐﾌﾞとﾚﾅﾘﾄﾞﾐﾄﾞ及びﾃﾞｷｻﾒﾀｿﾞﾝ併用療法の多施設共同研究前向き観察研究	花村　一朗	血液内科	546,008	補 委	シミックス株式会社
新規治療標的MMG49抗原の多発性骨髄腫における発現解析	花村　一朗	血液内科	58,400	補 委	EPクルーズ株式会社
子宮内膜症女性の心血管疾患発症予防のための新しいホルモン療法の開発	若槻明彦	産科・婦人科	1,430,000	補 委	日本学術振興会

若年女性に増加している子宮内膜症は閉経後骨粗鬆症の危険因子か？	松下　宏	産科・婦人科	910,000	補 委	日本学術振興会
精神的ストレスで惹起される循環障害の細胞内機序と麻酔薬の修飾効果に関する研究	渡辺員支（分担）	周産期母子医療センター	65,000	補 委	日本学術振興会
重症循環器疾患、脳血管疾患合併症妊娠の予後改善因子の研究 （分担）家庭血圧による妊娠高血圧症候群の早期診断と予後予測の試み	渡辺員支（分担）	周産期母子医療センター	200,000	補 委	2019度循環器病研究開発費
腹膜透析における除水不全、腹膜機能障害の病態解明と新たな治療戦略	伊藤恭彦	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,560,000	補 委	科研費
補体活性と糖鎖異常に着目した二次性血栓性微小血管症(TMA)の病態解明	勝野敬之	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,430,000	補 委	科研費
多発性嚢胞腎におけるリンパ管新生の意義の解明と新規治療法の開発	鬼無洋	腎臓・リウマチ膠原病内科	2,080,000	補 委	科研費
蛋白尿発生における糸球体内皮細胞表面糖タンパク質Glycocalyxの役割	浅井昭雅	腎臓・リウマチ膠原病内科	300,000	補 委	愛知腎臓財団研究助成
最小侵襲手術に対応可能なｾﾒﾝﾄｼｽﾃﾑの有限要素ﾓﾃﾞﾙを用いた開発	森島達観	整形外科	1,500,000	補 委	JSPS
糖代謝異常への早期介入による靭帯骨化症是正の可能性を探る研究	平澤敦彦	整形外科	3,510,000	補 委	JSPS
医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	池本竜則	整形外科	350,000	補 委	厚生労働省
ウイルス性肝疾患を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	米田政志	肝胆膵内科	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構研究費
職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究	米田政志	肝胆膵内科	300,000	補 委	日本医療研究開発機構研究費

胆汁酸代謝調節機構を標的としたB型肝炎ウイルス制御	伊藤清顕	肝胆膵内科	8,711,504	補 委	日本医療研究開発機構研究費
B型肝炎再活性化や発癌の原因となるエンベロープ蛋白質追加糖鎖修飾の分布と機能解析	伊藤清顕	肝胆膵内科	1,430,000	補 委	科学研究費助成事業
迷走神経に着目したNASH病態の解明と治療応用	中出幸臣	肝胆膵内科	1,040,000	補 委	科学研究費助成事業
NICU入院中の早期運動負荷による新たな早産児の発育改善への試み	森　麻里	周産期母子医療センター	103,911	補 委	科研費
SGA児の血小板減少の機序解明と血小板制御による神経発達改善への治療戦略	竹下　覚	周産期母子医療センター	4,160,000	補 委	科研費
横断的ｵﾐｸｽ解析を駆使した肺胞蛋白症の病態解明とｲﾝｼﾘｺ･ﾘﾎﾟｼﾞｮﾆﾝｸﾞ創薬	山口　悦郎	呼吸器･アレルギー内科	2,000,000	補 委	大阪大学
肺胞蛋白症診療に直結するエビデンス創出研究：重症難治例の診断治療管理	山口　悦郎	呼吸器･アレルギー内科	140,000	補 委	近畿中央呼吸器センター
ゲノムワイド解析による進行肺がんの治癒実現へ向けた基盤研究	久保　昭仁	呼吸器･アレルギー内科	4,940	補 委	科研費
中性脂肪蓄積心筋血管症に対する特異的栄養療法の動脈硬化抑制効果に関する検討	中野　雄介	循環器内科	1,500,000	補 委	日本学術振興会
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	道勇　学	内科学講座（神経内科）	1,000,000	補 委	厚生労働省
パーキンソン病治療効果の客観的判定手段としての脳血流SPECT検査の有用性	田口　宗太郎	パーキンソン病総合治療センター	3,640,000	補 委	日本学術振興会
疾患特異的iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の新規治療薬シーズの探索	岡田洋平	内科学講座（神経内科）	26,390,000	補 委	日本医療研究開発機構
大規模臨床、ゲノム、不死化細胞リソースを基盤としたオミックス解析による孤発性ALS治療法開発研究	岡田洋平	内科学講座（神経内科）	200,001	補 委	日本医療研究開発機構
大規模疾患レジストリとiPS細胞技術を活用した筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療薬開発	岡田洋平	内科学講座（神経内科）	9,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
疾患特異的iPS細胞を用いたポリグルタミン病創薬スクリーニングシステムの開発	丹羽淳一	内科学講座（神経内科）	1,820,000	補 委	日本学術振興会
疾患iPS細胞を活用した液性因子による運動ニューロン疾患の早期病態解明	岡田洋平	内科学講座（神経内科）	6,240,000	補 委	日本学術振興会

疾患iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明	道勇学	内科学講座（神経内科）	1,690,000	補 委	日本学術振興会
iPS細胞による革新的神経・筋共培養システムを用いた運動ニューロン疾患の病態解析	伊藤卓治	内科学講座（神経内科）	1,690,000	補 委	日本学術振興会
CAGリピート編集によるポリグルタミン病の根治的治療法の開発	岡田洋平	内科学講座（神経内科）	1,300,000	補 委	日本学術振興会
白血病幹細胞を保護する骨髄細動脈ニッチ：その制御機構の解明	中山享之	中央臨床検査部	1,300,000	補 委	日本学術振興会
間葉系幹細胞を利用する新しいGVHD予防法の開発と次世代シークエンサーによる遺伝子情報に基づく新しいドナー選択法の開発	中山享之	中央臨床検査部	320,000	補 委	名古屋大学AMED村田班
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	牛田　享宏	痛みセンター	10,000,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費
骨格筋再生による疼痛性瘢痕治療法の研究：間葉系幹細胞の選択と細胞外環境の解析	牛田　享宏	痛みセンター	1,690,000	補 委	科研基盤研究C
感覚過敏に対する新しい治療法の開発	西原　真理	痛みセンター	1,170,000	補 委	科研基盤研究C
腸内細菌叢の痛みの認知や調節機能におよぼすメカニズム	新井　健一	痛みセンター	1,170,000	補 委	科研基盤研究C
バーチャルリアリティと運動療法の組み合わせが痛みに及ぼす影響の検証	林　和寛	痛みセンター	530,000	補 委	科学奨励研究
家族性膝蓋骨無形成症の新規遺伝子の同定と疾患発症の解析	高木潤子	内科学講座（内分泌・代謝内科）	1,100,000	補 委	日本学術振興会

血管免疫芽球性T細胞リンパ腫の発生機構および臨床病理学的特徴の解明	佐藤啓	病理診断科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
マルチパラメトリック画像による胆管癌の時空間的予後決定因子解析	鈴木耕次郎	放射線科	3,400,000	補 委	科研費
早産核黄疸の包括的診療ガイドラインの作成	奥村彰久	小児科	1,860,000	補 委	日本医療研究開発機構研究費
結節性硬化症の知的障害・自閉症に対する新規治療薬の探索	奥村彰久	小児科	3,800,000	補 委	日本医療研究開発機構研究費
MERS－異常言動スペクトラムの分子生物学的基盤の解明	奥村彰久	小児科	1,100,000	補 委	文部科学研究費助成事業
次世代核磁気共鳴イメージング撮像法の周産期脳障害への応用研究	奥村彰久	小児科	200,000	補 委	文部科学研究費助成事業
妊娠高血圧症候群に起因するSGAの慢性肺疾患の重症化機序解明と新規治療法開発	奥村彰久	小児科	200,000	補 委	文部科学研究費助成事業
良質なエビデンスに基づく急性脳症の診療に向けた体制整備	奥村彰久	小児科	300,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
稀少てんかんに関する研究調査	奥村彰久	小児科	300,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
急性弛緩性麻痺、急性脳炎・脳症等の神経疾患に関する網羅的病原体検索を含めた原因及び病態の究明、治療法の確立に資する臨床疫学研究	奥村彰久	小児科	300,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
小児造血器腫瘍(リンパ系腫瘍)に対する標準治療確立のための研究	堀　壽成	小児科	500,000	補 委	日本医療研究開発機構研究費
グリアに着目した急性脳炎・脳症の病態解明と新規治療法の開発	倉橋宏和	小児科	1,400,000	補 委	文部科学研究費助成事業
MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発、および発達遅滞児を対象とした大規模解析	岩山秀之	小児科	1,100,000	補 委	文部科学研究費助成事業

計 65

（注） 1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Valencia RP, Kitaguchi Y, Nakano T, et al.	愛知医科大学病院	The Role of Overriding Preseptal Orbicularis Oculi Muscle in Development of Involutional Lower Eyelid Entropion: Microscopic Viewpoints	J Craniofac Surg. 2020 Mar/Apr;31:573-6.	Original Article
2	Vaidya A, Sahu S, Kakizaki H, et al.	愛知医科大学病院	Upper Fornix Approach to the Superonasal Intraconal Space: An Experience Including a Pediatric Patient	J Craniofac Surg. 2020 Jan/Feb;31:e101-3.	Case report
3	Kitaguchi Y, Takahashi Y, Kakizaki H	愛知医科大学病院	Computed Tomography-Based Prediction of Exophthalmos Reduction After Deep Lateral Orbital Wall Decompression for Graves' Orbitopathy	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2019 Dec;257:2759-67.	Original Article
4	Vaidya A, Ohmichi Y, Naito M, et al.	愛知医科大学病院	Positional relationship between medial canthal tendon and common canalicular orifice: A cadaveric study	Ann Anat. 2020 Jan;227:151432.	Original Article
5	Ana-Magadia MG, Valencia MRP, Naito M, et al.	愛知医科大学病院	Location of the myoneural junction of the inferior oblique muscle: An anatomic study	Ann Anat. 2020 Jan;227:151429.	Original Article
6	Sarbajna T, Valencia MRP, Kakizaki H, et al.	愛知医科大学病院	Orbital Blowout Fracture and Orbital Emphysema caused by Nose Blowing	J Craniofac Surg. 2020 Jan/Feb;31:e82-4.	Case report
7	Valencia MRP, Takahashi Y, Nakakura S, et al.	愛知医科大学病院	Sex-specific difference in age distribution of congenital lower eyelid epiblepharon in a Japanese population	Jpn J Ophthalmol. 2019 Sep;63:425-8.	Original Article

8	Valencia MRP, Takahashi Y, Ishikawa E, et al.	愛知医科大学病院	Compressive optic neuropathy in non-thyroidal lymphocytic infiltrative disorders of the extraocular muscles	Can J Ophthalmol. 2019 Apr;54:e81-4.	Case report
9	Sarbajna T, Takahashi Y, Valencia MRP, et al.	愛知医科大学病院	Computed tomographic assessment of the lacrimal sac fossa in the Japanese population	Ann Anat. 2019 Jul;224:23-7.	Original Article
10	Valencia MRP, Takahashi Y, Naito M, et al.	愛知医科大学病院	Lacrimal drainage anatomy in the Japanese population	Ann Anat. 2019 May;223:90-9.	Review
11	Othman OB, Takahashi Y, Valencia MRP, et al.	愛知医科大学病院	A stone in the lacrimal gland: a case report and literature review	Orbit. 2020 Feb;39:48-52	Case report
12	Sarbajna T, Takahashi Y, Valencia MRP, et al.	愛知医科大学病院	Tissue Necrosis in Epstein-Barr Virus-Negative Orbital Diffuse Large B-Cell Lymphoma	J Craniofac Surg. 2019 May/Jun;30:e226-8.	Case report
13	Herdiana TR, Takahashi Y, Valencia MRP, et al.	愛知医科大学病院	Epibulbar osseous choristoma within a dermolipoma: case report and literature review	Orbit. 2019 Oct;38:407-11.	Case report
14	Lin P, Kitaguchi Y, Mupas-Uy J, et al.	愛知医科大学病院	Involutional lower eyelid entropion: causative factors and therapeutic management	Int Ophthalmol. 2019 Aug;39:1895-907.	Review
15	Sabundayo MS, Takahashi Y, Kakizaki H	愛知医科大学病院	Lacrimal sac lymphoma: a series of Japanese patients.	Eur J Ophthalmol. 2019 Nov;29:678-84.	Original Article
16	Takayoshi Gocho, Hisatake Mori, Md. Monirul Islam et al,	救命救急科	Removal of Circulating Neutrophil Extracellular Trap Components with an Immobilized Polymyxin B Filter: A Preliminary Study	Shock. Vol. 54, No. 1, 44-49, 2020	Original Article
17	Mitsuoka H, Naito M, Ohmichi Y et al.	血管外科	The left brachiocephalic vein 'spur': A cadaveric and contrast computed tomography study.	Phlebology 34:690-697 2019	Original Article

18	Orimoto Y, Ishibashi H, Sugimoto I et al.	血管外科	A case of iliac aneurysm with persistent sciatic artery treated by endovascular aneurysm repair.	Annals of Vascular Surgery 56:351e17-351e20 2019	Case report
19	Y. Maruyama, H. Ishibashi, I. Sugimoto, T. et al.	血管外科	Effects of patency of run-off arteries on distal bypass in critical limb ischemia	J. Aichi Med. Univ. Assoc. 47 (1/2/3), p1-11, 2019	Original Article
20	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	Relative and Absolute Sensitivity Analysis on Ozone Production in Tsukuba, a City in Japan.	Environ Sci Technol. 2019 Dec 3;53(23):13629-13635. doi: 10.1021/acs.est.9b03542. Epub 2019 Nov 13.	Case report
21	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	Japanese Nationwide Study on the Association Between Short-term Exposure to Particulate Matter and Mortality.	J Epidemiol. 2019 Dec 5;29(12):471-477. doi: 10.2188/jea.JE20180122. Epub 2018 Oct 27.	Case report
22	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	Evaluation of a biosimilar granulocyte colony-stimulating factor for peripheral blood stem cell mobilization in Japanese healthy donors: a prospective study.	Int J Hematol. 2019 Dec;110(6):648-653. doi: 10.1007/s12185-019-02733-8. Epub 2019 Sep 21.	Case report
23	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	A systematic literature review on the use of platelet transfusions in patients with thrombocytopenia.	Hematology. 2019 Dec;24(1):679-719. doi: 10.1080/16078454.2019.1662200.	Case report
24	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	Role of alternative donor allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in patients with intermediate- or poor-risk acute myeloid leukemia in first complete remission.	Bone Marrow Transplant. 2019 Dec;54(12):2004-2012. doi: 10.1038/s41409-019-0571-8. Epub 2019 May 31.	Case report
25	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	Autologous hematopoietic cell transplantation for acute myeloid leukemia in adults: 25 years of experience in Japan.	Int J Hematol. 2020 Jan;111(1):93-102. doi: 10.1007/s12185-019-02759-y. Epub 2019 Oct 14.	Case report

26	高見　昭良	愛知医科大学　血液内科	Efficacy and safety of autologous stem cell transplantation in patients aged ≥65 years with multiple myeloma in the era of novel agents.	Bone Marrow Transplant. 2019 Oct;54(10):1595-1604. doi: 10.1038/s41409-019-0478-4. Epub 2019 Feb 19.	Case report
27	花村　一朗	愛知医科大学　血液内科	Establishment and characterization of CRISPR/Cas9-mediated NF2(-/-) human mesothelial cell line: Molecular insight into fibroblast growth factor receptor 2 in malignant pleural mesothelioma.	Cancer Sci 2019;110(1): 180-193.	Case report
28	花村　一朗	愛知医科大学　血液内科	Doripenem versus meropenem as first-line empiric therapy of febrile neutropenia in patients with acute leukemia: a prospective, randomized study.	Ann Hematol2019; 98(5): 1209-1216.	Case report
29	花村　一朗	愛知医科大学　血液内科	Immunomodulatory and Metabolic Changes after Gnetin-C Supplementation in Humans.	Nutrients2019; 11(6).	Case report
30	花村　一朗	愛知医科大学　血液内科	Plasma cell myeloma positive for t(14;20) with relapse in the central nervous system.	J Clin Exp Hematop2019; 59(3): 135-139.	Case report

31	花村　一朗	愛知医科大学　血液内科	EBV-positive mucocutaneous ulcer arising in rheumatoid arthritis patients treated with methotrexate: Single center series of nine cases.	Pathol Int2019; 69(1): 21-28.	Case report
32	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	"Upfront Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation (Hct) Versus Remission Induction Chemotherapy Followed by Allogeneic Hct for Acute Myeloid Leukemia with Multilineage Dysplasia: A Propensity Score Matched Analysis."	Am J Hematol 2019; 94: 103-110.	Case report
33	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	"Efficacy and Safety of Autologous Stem Cell Transplantation in Patients Aged >/= 65 Years with Multiple Myeloma in the Era of Novel Agents."	Bone Marrow Transplant 2019; (Feb 19 2019) [Epub ahead of print].	Case report
34	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	Autologous hematopoietic cell transplantation for acute myeloid leukemia in adults: 25 years of experience in Japan	Published online 14 October2019	Case report
35	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	Conditioning Intensity for Allogeneic Hematopietic Cell Transplantation in Acute Myeloid Leukemia Patients with Poor-Prpgnosis Cytogenetic in First Complete Remission	1083-8791/© 2019AmericanSociety for TransplantationandCellular Therapy.Published byElsevier Inc.　T. Konumaet al./ Biol BloodMarrow Transplant 00(2019)1 9	Case report
36	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	Changing Trends in the Risk Factors of Secondary Primary Malignancies after Autologous Stem Cell Transplantion for Multiple Myeloma before and after the Introduction of Proteasome Inhibitors/Immunomodulatory Agents	651.Myeloma: Biology and Pathophysiology, excluding Therapy| November 13, 2019 Blood (2019) 134 (Supplement_1): 4358.	Case report

37	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	Allogeneic Stem Cell Transplantation in Patiens with Philadelphia Chromosome-positive Acute Myeloid Leukemia in Japan	(Konuma, Harada et al. 2019, Konuma, Kondo et al. 2019, Mizuno, Kawamura et al. 2019, Yamasaki, Aoki et al. 2019, Yanada, Takami et al. 2019, Horio, Morishita et al. 2020, Kanasugi, Hanamura et al. 2020, Mizuno, Yanada et al. 2020, Nakagami, Uchino et al. 2020, Uchino, Ato et al. 2020, Yanada, Konuma et al. 2020)	Case report
38	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	"Donor Heme Oxygenase-1 Promoter Gene Polymorphism Predicts Survival after Unrelated Bone Marrow Transplantation for High-Risk Patients."	Cancers (Basel) 12(2)	Case report
39	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	"Biallelic loss of FAM46C triggers tumor growth with concomitant activation of Akt signaling in multiple myeloma cells."	Cancer Sci 111(5): 1663-1675	Case report
40	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	"Upfront allogeneic hematopoietic cell transplantation (HCT) versus remission induction chemotherapy followed by allogeneic HCT for acute myeloid leukemia with multilineage dysplasia: A propensity score matched analysis."	Am J Hematol 94(1): 103-110.	Case report
41	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	"Efficacy and safety of autologous stem cell transplantation in patients aged >/= 65 years with multiple myeloma in the era of novel agents."	Bone Marrow Transplant 54(10): 1595-1604	Case report
42	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	"[Emergence of Howell-Jolly bodies in a patient with splenic hypoplasia complicated by fulminant pneumococcal infection].	Rinsho Ketsueki 61(4): 318-321	Case report

43	水野　昌平	愛知医科大学　血液内科	Plasma cell myeloma positive for t(14;20) with relapse in the central nervous system.	J Clin Exp Hematop. 2019 Sep 30;59(3):135-139. doi: 10.3960/jslrt.19011. Epub 2019 Aug 8.	Case report
44	仲上 祐也	愛知医科大学　検査部	Immunomodulatory and metabolic changes after Gnetin-C supplementation in humans	nutrients Nutrients 2019, 11(6), 1403	Review
45	Matsushita H, Yabushita H, Tsuzuki T, et al	産科・婦人科	Squamous cell carcinoma of the endometrium with contiguous superficial spreading to the vagina, uterine cervix fallopian tube, and ovary	Eur J Gynaecol Oncol, 2019 Jun, 40;487-9	Original Article
46	Morita N, Matsushita H, Minami A, et al.	産科・婦人科	Effect of the methanol extract of the Lion's Mane mushroom, Hericium erinaceus, on bone metabolism in ovariectomized rats	Clin Exp Obstet Gynecol, 2020 Feb, 47;83-88	Original Article
47	Yano M, Numanami H, Akiyama T, et al.	呼吸器外科	Thoracoscopic Thymectomy for Large Thymic Cyst: Myasthenia Gravis With Thymoma Concealed by Thymic Cyst.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2019 Jun;29(3): e34-e36.	Original Article
48	Yano M, Numanami H, Akiyama T, et al.	呼吸器外科	Reoperation for postoperative bleeding following pulmonary resection: a report of a single-center experience.	Gen Thorac and Cardiovasc Surg. 2019Jul;67(7):608-14.	Original Article
49	Yasuhiro Yamamoto	愛知医科大学	Metronidazole-induced encephalopathy caused by hyperbaric oxygen therapy in a patient with mandibular osteomyelitis.	Journal of Infection and Chemotherapy, 25(12), 1057-1059, 2019	Others
50	Yuria Ishida	愛知医科大学	Impact of edema on length of calf circumference in olderadults.	Geriatrics & Gerontology International, 19(10),993-998, 2109	Original Article

51	Keiseuke Meda	愛知医科大学	Burden of Premorbid Consumption of Texture Modified Diets in Daily Life on Nutritional Status and Outcomes of Hospitalization.	The journal of nutrition, health & aging,23(10), 973-978, 2019	Others
52	Yoshitomo Nishio	愛知医科大学	Treatment outcome of oral appliance in patients with REM-related obstructive sleep apnea.	Sleep and Breathing, 2019	Original Article
53	Keisuke Maeda	愛知医科大学	Development and Predictors of Sarcopenic Dysphagia during Hospitalization of Older Adults.	Nutrients 2020, 12, 70; doi:10.3390/nu12010070	Original Article
54	Yuria Ishida	愛知医科大学	Malnutrition at Admission Predicts In-Hospital Falls in Hospitalized Older Adults.	Nutrients 2020 Feb 20;12(2):541. doi: 10.3390/nu12020541.	Original Article
55	Okada M, Watanuki H, Sugiyama K.et al.	cardiac surgery	Unusual rupture of left ventricular pseudo-false aneurysm secondary to subacute anterolateral myocardial infarction	Journal of Cardiothoracic Surgery, 2019 May 17;14(1):93.	Case report
56	Sugiyama K,Futamura Y, Watanuki H.et al	cardiac surgery	Liver and Gallbladder Infarction as a Complication of Acute Aortic Dissection in the Splenomesenteric Trunk	Clinics in Surgery 2019, Nov 13,,2654	Case report
57	Sugiyama K,Futamura Y, Watanuki H.et al	cardiac surgery	Concomitant Brachiocephalic to Bilateral Subclavian Artery Bypass with Off-Pump Coronary Artery Bypass Grafting	Clinics in Surgery 2019, Nov 13,2655	Case report
58	Masaho Okada, Hirotaka Watanuki, Kayo Sugiyama, et al	cardiac surgery	Potential benefit of non-cardiac arrested thromboembolectomy of acute pulmonary embolism for the impaired right ventricular function.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Oct 8.	Original Article

59	Sugiyama K, Suzuki S,Fujiyoshi S, at al	cardiac surgery	Extracorporeal membrane oxygenation after pulmonary endarterectomy for chronic thromboembolic pulmonary hypertension	J Card Surg. 2019;April 24.1-7.	Original Article
60	Sugiyama K, Suzuki S,Fujiyoshi S, at al	cardiac surgery	Pulmonary endarterectomy for chronic thromboembolic pulmonary hypertension with active Crohn's disease	Surg Case Rep 2019, April 5, 59	Case report
61	Futamura Y, Watanuki H, Okada M、et al	cardiac surgery	Penetration of the ascending aorta and bronchus by a crossbow bolt	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2020Feb :26. 512-513	Case report
62	Takayuki Katsuno , Masashi Kato , Takashi Fujita, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Chronological change of renal pathological findings in the proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits considered to have recurred early after kidney transplantation	CEN Case Rep. 2019 Aug;8(3):151-158.	Case report
63	Yasuhiko Ito , Mitsuhiro Tawada, Hidemichi Yuasa, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	New Japanese Society of Dialysis Therapy Guidelines for Peritoneal Dialysis	Contrib Nephrol. 2019 Apr ;198:52-61.	Others
64	Makoto Yamaguchi, Takayuki Katsuno, Hanako Ito, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis Presenting Rapid Progressive Glomerulonephritis With Elevation of Serum Immunoglobulin G4	J Clin Rheumatol. 2019 Jun（オンライン）	Case report
65	Makoto Yamaguchi , Takayuki Katsuno, Shiho Iwagaitsu, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Oral candidiasis is a significant predictor of subsequent severe infections during immunosuppressive therapy in anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis	BMC Infect Dis. 2019 Jul 26;19(1):664.	Original Article

66	Hiroshi Kinashi, Naohiro Toda, Ting Sun, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Connective tissue growth factor is correlated with peritoneal lymphangiogenesis	Sci Rep. 2019 Aug 21;9(1):12175.	Original Article
67	Hironobu Nobata, Takayuki Katsuno, Asako Kachi, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Diversity of Renal Involvement in Antiphospholipid Syndrome by Nephropathy Based on Pathological Findings and Treatment Responses	J Clin Rheumatol. 2019 Nov (オンライン)	Case report
68	Akimasa Asai, Shogo Banno, Nao Asai, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Diffuse alveolar haemorrhage in a case with antiRNA polymerase III antibody-positive systemic sclerosis successfully treated with plasma exchange and corticosteroid therapy	MODERN RHEUMATOLOGY CASE REPORTS, 2019 Oct 24: 51-55 (オンライン)	Case report
69	Akao Machiko, Ikemoto Tatsunori, Takata Takuya,et al.	整形外科	Suprapatellar plica classification and suprapatellar plica syndrome.	Asia-Pacific journal of sports medicine, arthroscopy, rehabilitation and technology 2019/07 17:10-15	Original Article
70	Harada Yohei, Iwahori Yusuke, Kajita Yukihiro,et al.	整形外科	Secondary frozen shoulder after traumatic anterior shoulder instability.	JSES international 2020/3/1 4(1):72-76	Original Article
71	Kajita Yukihiro, Iwahori Yusuke, Harada Yohei,et al.	整形外科	Ultrasonographic analysis of the extensor carpi radialis brevis in asymptomatic individuals.	Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association 2020/01 30352 オンライン	Original Article
72	Kajita Yukihiro, Iwahori Yusuke, Harada Yohei,et al.	整形外科	Detection of Cutibacterium acnes in arthroscopic rotator cuff and bankart repair.	Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association 2019/11	Original Article
73	Kawanami Katsuhisa, Matsuo Toshihiro, Sato Keiji,et al.	整形外科	Two cases of pelvic sarcoma in the acetabulum with >10-year follow-ups after carbon ion radiotherapy.	Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association 2020/03 25(2):349-353	Original Article

74	Ikemoto Tatsunori, Hayashi Kazuhiro, Arai Young-Chang,et al.	整形外科	The Relationship Between Musculoskeletal Pain and Picky Eating: The Role of Negative Self-Labeling.	Pain and therapy 2019/06 8(1):101-110	Original Article
75	Mahmoud EE, Adachi N, Mawas AS,et al.	整形外科	Multiple intra-articular injections of allogeneic bone marrow-derived stem cells potentially improve knee lesions resulting from surgically induced osteoarthritis: an animal study	The Bone & Joint Journal 2019/07 101-B(7):824-831	Original Article
76	Yuria Ishida, Keisuke Maeda, Tomoyuki Nonogaki,	栄養部	Impact of edema on length of calf circumference in older adults.	Geriatrics & gerontology international 19(10) 993 - 998 2019年10月	Original Article
77	Keisuke Maeda, Y. Ishida, T. Nonogaki	緩和ケアセンター	Burden of Premorbid Consumption of Texture Modified Diets in Daily Life on Nutritional Status and Outcomes of Hospitalization	The journal of nutrition, health & aging 23(10) 973 - 978 2019年12月	Original Article
78	Keisuke Maeda, Yuria Ishida, Tomoyuki Nonogaki	緩和ケアセンター	Development and Predictors of Sarcopenic Dysphagia during Hospitalization of Older Adults.	Nutrients 12(1) 2019年12月26日	Original Article
79	Keisuke Maeda, Yuria Ishida, Tomoyuki Nonogaki	緩和ケアセンター	Reference body mass index values and the prevalence of malnutrition according to the Global Leadership Initiative on Malnutrition criteria	Clinical Nutrition 39(1) 180 - 184 2020年1月	Original Article
80	Keisuke Maeda, Yuria Ishida, Tomoyuki Nonogaki	緩和ケアセンター	Poor oral health and mortality in geriatric patients admitted to an acute hospital: an observational study.	BMC geriatrics 20(1) 26 - 26 2020年1月28日	Original Article
81	Yuria Ishida, Keisuke Maeda, Tomoyuki Nonogaki	栄養部	Malnutrition at Admission Predicts In-Hospital Falls in Hospitalized Older Adults.	Nutrients 12(2) 2020年2月20日	Original Article

82	Ito K	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Difference between genotypes B and C in the decline and disapparance of hepatitis B surface antigen: Toward an era of direct-acting antiviral agents of hepatitis B virus	Hepatol Res. 2019 Nov	Others
83	Sakamoto K, Umemura T, Ito K, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Virological Factors Associated With the Occurrence of Hpatitis B Virus (HBV) Reactivation in Patients With Resolved HBV Infection Analyzed Through Ultradeep Sequencing	J Infect Dis. 2020 Jan	Original Article
84	Ohashi T, Nakade Y, Ibusuki M, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Conophylline inhibits high fat diet-induced non-alcoholic fatty liver disease in mice	PLoS One 2019 28;14(1):e0210068.	Original Article
85	Tashiro T, Uwamori F, Nakade Y, wt al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Primary Gastrointestinal Stromal Tumor of the Liver with Cystic Changes	Case Rep Gastroenterol 2019　13(1):58-65.	Case report
86	Sumida Y, Murotani K, Saito M, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Effect of luseogliflozin on hepatic fat content in type 2 diabetes patients with non-alcoholic fatty liver disease: A prospective, single-arm trial (LEAD trial).	Hepatol Res. 2019 Jan;49(1):64-71.	Original Article
87	Sumida Y, Yoneda M, Okanoue T	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Is the grade of ballooned hepatocytes a significant risk factor for rapid progression of hepatic fibrosis in patients with NAFLD?	J Gastroenterol. 2019 May;54(5):474-475	Others
88	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Balloon enteroscopy-assisted radial incision and cutting method for refractory hepaticojejunostomy anastomotic strictures	Endoscopy 2019 Jun;51:566-570	Original Article

89	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Combined side-by-side and stent-in-stent method for triple metal stenting in patients with malignant hilar biliary obstruction	Dig Endosc. 2019 Nov;31(6):698-705	Original Article
90	Inoue T, Ito K, Yoneda M.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Endoscopic removal of a fragmented stent after EUS-guided pancreatic duct drainage using a novel gooseneck snare with an uneven double-lumen cannula	Dig Endosc. 2019 Nov;31(6):e109-e110	Case report
91	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Covered self-expandable metal stent placement for post-endoscopic sphincterotomy bleeding in a patient with surgically altered anatomy	Endoscopy. 2020 Jan;52(1):E13-E14	Case report
92	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Removing a metal stent using a string following endoscopic ultrasound-guided antegrade placement for pancreaticojejunostomy stricture	Endoscopy. 2020 Jan;52(1):E39-E40	Case report
93	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	A novel large cell-sized stent with slim delivery for combined side-by-side and stent-in-stent placement in malignant hilar biliary obstruction	Endoscopy. 2020 Mar;52(3):E104-E105	Case report
94	Inoue T, Okumura F, Sano H, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Impact of endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy on the diagnosis of subepithelial tumors: A propensity score-matching analysis.	Dig Endosc. 2019 Mar;31(2):156-163	Original Article
95	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Severe Biliary Stricture Dilation Using the Soehendra Stent Retriever with a Short-Type Balloon Enteroscope in Patients with Surgically Altered Anatomies.	J Gastrointest Surg. 2019 May;23(5):953-958	Original Article

96	Tsukiyama I, Ando M, Tsukiyama S, Takeuchi M, Ejiri M, Kurose Y, Saito H, Arakawa I, Inoue T, Yamaguchi E, Kubo A. , et al.	愛知医科大学病院	Cost-utility analysis of aprepitant for patients who truly need it in Japan.	Support Care Cancer 2019 Oct;27(10):3749-3758.	Original Article
97	Yokoe N, Yamaguchi E.	愛知医科大学病院	Chylothorax and Bilious Pleural Effusion. Intern Med.	Intern Med. 2019 Nov 1;58(21):3195-3196.	Case report
98	Yoshimine T, Funaki Y, Kawamura Y,	愛知医科大学　消化管内科	Convenient Method of Measuring Baseline Impedance for Distinguishing Patients with Functional Heartburn from those with Proton Pump Inhibitor-Resistant Endoscopic Negative Reflux Disease.	Digestion. 2019;99(2):157-165.	Original Article
99	Nakagawa S, Okaniwa N, Mizuno M,	愛知医科大学　消化管内科	Treatment Adherence in Patients with Ulcerative Colitis Is Dependent on the Formulation of 5-Aminosalicylic Acid.	Digestion. 2019;99(2):133-139.	Original Article
100	Kawamura Y, Funaki Y, Yoshimine T,	愛知医科大学　消化管内科	Characteristics and Predictive Factor of Helicobacter pylori-Associated Functional Dyspepsia in Japanese Patients.	Digestion. 2019;100(4):277-285.	Original Article
101	Inoue S, Ito H, Tsunoda T,	愛知医科大学　消化管内科	CD70 expression in tumor-associated fibroblasts predicts worse survival in colorectal cancer patients.	Virchows Arch. 2019 Oct;475(4):425-434.	Original Article
102	Ebi M, Sakamoto K, Inoue S,	愛知医科大学　消化管内科	Esophageal Leiomyosarcoma Diagnosed by Endoscopic Ultrasound-guided Fine-needle Aspiration Biopsy and Cured with Surgical Resection.	Intern Med. 2019 Sep 1;58(17):2479-2483.	Case report

103	Adachi K, Sugiyama T, Yamaguchi Y,	愛知医科大学　消化管内科	Gut microbiota disorders cause type 2 diabetes mellitus and homeostatic disturbances in gut-related metabolism in Japanese subjects.	J Clin Biochem Nutr. 2019 May;64(3)231-238.	Original Article
104	Sugiyama T, Ebi M, Ochiai T,	愛知医科大学　消化管内科	Gastric schwannoma with high accumulation on fluorodeoxyglucose-positron emission tomography resected by non-exposed endoscopic wall-inversion surgery.	Clin J Gastroenterol. 2020 Feb;13(1):50-54.	Case report
105	Kawamura Y, Yamamoto S, Funaki Y,	愛知医科大学　消化管内科	Internet survey on the actual situation of constipation in the Japanese population under 70 years old: focus on functional constipation and constipation-predominant irritable bowel syndrome.	J Gastroenterol. 2020 Jan;55(1):27-38.	Original Article
106	Tanabe A, Adachi K, Yamaguchi Y,	愛知医科大学　消化管内科	Gut Environment and Dietary Habits in Healthy Japanese Adults and their Association with Bowel Movement.	Digestion. 2019 Aug 21:1-11.	Original Article
107	Naotaka Ogasawara, Yoshiharu Yamaguchi, Takuya Takahama,	愛知医科大学　消化管内科	Radiofrequency catheter ablation-induced gastroparesis successfully treated with administration of mosapride citrate: two case reports.	Clin J Gastroenterol. 2020;13:182-185	Case report
108	Naotaka Ogasawara, Manami Suzuki, Kazunori Adachi,	愛知医科大学　消化管内科	Endoscopic Resection of a Pedunculated Cavernous Hemangioma of the Sigmoid Colon: A Case Report	Case Rep Gastroenterol. 2019;13(3):418-422.	Case report
109	Funaki Y, Ogasawara N, Kawamura Y,	愛知医科大学　消化管内科	Effects of acotiamide on functional dyspepsia patients with heartburn who failed proton pump inhibitor treatment in Japanese patients: A randomized, double-blind, placebo-controlled crossover study.	Neurogastroenterol Motil. 2020 Feb;32(2):e13749.	Original Article

110	Funaki Y, Ogasawara N, Kawamura Y,	愛知医科大学　消化管内科	Markedly Effective Steroid Treatment of Three Patients with Allergy-related Jackhammer Esophagus.	Intern Med. 2020 Mar 1;59(5):633-639.	Case report
111	Shinmura T, Adachi K, Yamaguchi Y,	愛知医科大学　消化管内科	Vonoprazan-Based Triple-Therapy Could Improve Efficacy of the Tailored Therapy of Helicobacter pylori Infection.	J Gastrointestin Liver Dis. 2019 Dec 9;28(4):389-395.	Original Article
112	Inoue S, Tsunoda T, Riku M,	愛知医科大学　消化管内科	Diffuse mesothelin expression leads to worse prognosis through enhanced cellular proliferation in colorectal cancer.	Oncol Lett. 2020 Mar;19(3):1741-1750.	Original Article
113	Sugiyama T, Sasaki M, Nakagawa S, Inoue S,	愛知医科大学　消化管内科	The association among enterobacterial flora, dietary factors, and prognosis in patients with ulcerative colitis.	J Clin Biochem Nutr. 2020 Mar;66(2):152-157.	Original Article
114	Taguchi S, Tanabe N, Niwa J, et al	内科学講座(神経内科)	Motor improvement-related regional cerebral blood flow changes in Parkinson's disease in response to antiparkinsonian drugs.	Parkinson's Disease 2019 Mar (オンライン)	Original Article
115	Hyodo T, Rahman ML, Karnan S	生化学講座	Tandem paired nicking promotes precise genome editing with scarce interference by p53	Cell Rep. 2020 Jan 28;30(4):1195-1207.e7.	Original Article
116	Okada R, Onodera K, Ito T	内科学講座(神経内科)	Modulation of oxygen tension, acidosis, and cell density is crucial for neural differentiation of human induced pluripotent stem cells.	Neurosci. Res., 2020 Jan S0168-0102(20)30043-2.	Original Article
117	Onodera K, Shimojo D, Ishihara Y	内科学講座(神経内科)	Unveiling synapse pathology in spinal bulbar muscular atrophy by genome-wide transcriptome analysis of purified motor neurons derived from disease specific iPSCs	Mol. Brain, 2020 Feb 13(1):18.	Original Article
118	Hiroaki Nakagawa, Yasushi Miyata	総合診療科	Right Upper Arm Lymphedema Secondary to Exercise-related Rhabdomyolysis.	Internal Medicine.2020;59(1):143	Others

119	J Usami, Y Takezawa.	総合診療科	DPP-4 Inhibitor-associated Bullous Pemphigoid in a Hemodialysis Patient	Int. Med. 2020; 59: 593	Case report
120	Yuya Nakagami, Susumu Suzuki, J. Luis Espinoza, et al	中央臨床検査部	Immunomodulatory and Metabolic Changes after Gnetin-C Supplementation in Humans	Nutrients. 2019 Jun; 11(6): 1403	Original Article
121	Yuka Shibata, Tatsuhito Himeno, Taeko Kamiya, et al	中央臨床検査部	Validity and reliability of a point-of-care nerve conduction device in diabetes patients	J Diabetes Investig. 2019 Sep; 10(5): 1291-1298.	Original Article
122	Ushida T, Matsui D, Inoue T, et al.	痛みセンター	Recent prescription status of oral analgesics in Japan in real-world clinical settings: retrospective study using a large-scale prescription database	Expert Opin Pharmacother. 2019;20(16):2041-2052	Original Article
123	Hayashi K, Morishima T, Ikemoto T, et al.	リハビリテーション科（統合疼痛医学大学院生）	Pain Catastrophizing Is Independently Associated with Quality of Life in Patients with Severe Hip Osteoarthritis	Pain Med. 2019;20(11):2220-2227	Original Article
124	Hayashi K, Miki K, Ikemoto T, et al.	リハビリテーション科（統合疼痛医学大学院生）	Factors influencing outcomes among patients with whiplash-associated disorder: A population-based study in Japan	PLoS One. 2019;14(5):e0216857	Original Article
125	Hayashi K, Aono S, Shiro Y, et al.	リハビリテーション科（統合疼痛医学大学院生）	Effects of Virtual Reality-Based Exercise Imagery on Pain in Healthy Individuals	Biomed Res Int. 2019;2019:5021914	Original Article
126	Morita H, Takagi J, Hirase S et al	内科学講座（内分泌・代謝内科）	Coexistence of two endocrine abnormalities: Pituitary Stalk Interruption Syndrome (PSIS) and Cushing Syndrome. interruption syndrome (PSIS) and Cushing syndrome.	Ann Clin Case Rep. 2019 Sep（オンライン）	Case report

127	Morita H, Sato Y, Wakayama Y et al	内科学講座(内分泌・代謝内科)	Motor-dominant peripheral Neuropathy, Polydactyly, mental retardation, Kidney failure, Diabetes Mellitus, and Developmental delay in the absence of Retinal Dystrophy : Spectrum of Bardet-Biedl Syndrome (BBS)	Bio Medical ;2019 Nov :16926-16929.	Original Article
128	Satou A, Bennani NN, Feldman AL.	病理診断科	Update on the classification of T-cell lymphomas, Hodgkin lymphomas, and histiocytic/dendritic cell neoplasms.	Expert Rev Hematol. 2019 Oct;12(10):833-843.	Review
129	Satou A, Tabata T, Miyoshi H,et al	病理診断科	Methotrexate-associated lymphoproliferative disorders of T-cell phenotype: clinicopathological analysis of 28 cases.	Mod Pathol. 2019 Jul;32(8):1135-1146.	Original Article
130	Satou A, Feldman AL.	病理診断科	Educational Case: ALK-Negative Anaplastic Large Cell Lymphoma.	Acad Pathol. 2020 Jan 30 オンライン	Review
131	Akiko Narita, Takahiro Yamamoto, Shuji Ikeda, et al.	放射線科	In vitro evaluation of radiopacity of contrast-loaded superabsorbent polymer microspheres(SAP-MS) with static imaging and flow model	Japanese Journal of Radiology 2019 Oct;37(10):710-718	Original Article
132	Okumura A, Mori H, Fee Chong P他	小児科	Serial MRI findings of acute flaccid myelitis during an outbreak of enterovirus D68 infection in Japan.	Brain Dev. 2019;41:443-51.	Original Article
133	Okumura A, Kurahashi H, Iwayama H他	小児科	Serum carnitine levels of children with epilepsy: Related factors including valproate.	Brain Dev. 2019;41:516-21.	Original Article
134	Okumura A, Shimojima K, Kurahashi H 他	小児科	PRRT2 mutations in Japanese patients with benign infantile epilepsy and paroxysmal kinesigenic dyskinesia.	Seizure. 2019;71:1-5.	Original Article

135	Okumura A, Numoto S, Iwayama H他	小児科	Respiratory illness and acute flaccid myelitis in the Tokai district in 2018.	Pediatr Int. 2019; Dec 30[Epub ahead of print]	Original Article
136	Okumura A, Saitoh S, Natsume J他	小児科	Attitudes of school teachers toward epilepsy in Nagoya, Japan.	Epilepsy Behav. 2019;Oct 23[Epub ahead of print].	Original Article
137	Muto T, Masuda Y, Numoto S他	小児科	White blood cell and neutrophil counts and response to intravenous immunoglobulin in Kawasaki Disease. Glob Pediatr Health.	2019 Oct 25;6:2333794X19884826.	Original Article
138	Akaihata M, Shikama Y, Matsumoto Y 他	小児科	Glicocorticoids attenuate the sensitivity of glucocorticoid-resistant lymphoid cells to doxorubicin via reduction in OCTN2.	Mol Cell Biochem. 2019;459:49-59.	Original Article
139	Miyata K, Hori T, Shimomura Y 他	小児科	Efficacy of oral propranolol and laser therapy for infantile hemangioma.	J.Aichi Med. Univ. Assoc. 2019;47:13-22	Original Article
140	Miyamoto R, Okuda M, Kaneko K他	小児科	Multiple magnets ingestion followed by intestinal fistula with mild symptoms.	Glob Pediatr Health. 2019 Jun 11;6:2333794X19855805.	Original Article
141	Miyamoto R, Okuda M, Lin Y他	小児科	Rapidly decreasing prevalence of helicobacter pylori among Japanese children and adolescents.	J Infect Chemother. 2019;25:526-30.	Original Article
142	Takasu M, Kubota T, Tsuji T他	小児科	The effects of antihistamines on the semiology of febrile seizures.	Brain Dev. 2019;41:72-6.	Original Article
143	Kentaro Mukai, Yusuke Nakano, Tomofumi Mizuno, 他	循環器内科	Impact of vascular access site on procedural time of endomyocardial biopsy	Heart and Vessels. 2019 May; 34: 793-800	Original Article

144	Yusuke Nakano, Katsuhisa Waseda, Hirohiko Ando, 他	循環器内科	Tumor-like appearance in ruptured sinus of Valsalva with quadricuspid aortic valve	Journal of Cardiology Cases. 2019 Jul; 20: 115-117	Case report
145	Hirohiko Ando, Hiroaki Takashima, Tetsuya Amano	循環器内科	Exploratory "Odyssey" During Pursuit of Plaque Control	Circulation Journal. 2019 Oct; 83: 1988-1990	Others
146	Hirofumi Ohashi, Hirohiko Ando, Hiroaki Takashima, 他	循環器内科	Diagnostic Performance of High-Resolution Intravascular Ultrasound for the Detection of Plaque Rupture in Patients With Acute Coronary Syndrome	Circulation Journal. 2019 Dec; 83: 2505-2511	Original Article
147	Ueda Hiroko	周産期母子医療センター	Corticotrophin-releasing hormone stimulation tests in late-onset circulatory collapse	Pediatr Int.2019;61(11):1114-1119.	Original Article
148	Ichimura Shintaro	周産期母子医療センター	A Rare Case of Fetal Onset, Food Protein-Induced Enterocolitis Syndrome.	Neonatology.116(4):376-379.	Case report
149	Yasui K、Ishiguro S、Komatsu S、et al.	愛知医科大学　消化器外科	Novel approach to intraoperative peritoneal lavage with an extracorporeal stirring method in laparoscopic surgery for generalized peritonitis:Preliminary results	Asian Journal of endoscopic surgery 2020.1; 13(1): 89-94	Original Article
150	Saito T、Fukami Y、Kurahashi S.、 et al.	愛知医科大学　消化器外科	Concomitant performance of laparoscopic sleeve gastrectomy and primary closure of incisional hernia in a patient with morbid obesity:A case report	Journal of The Aichi Medical University Association 2020.3;48(1):1-6	Case report
～					計 150件

（注）1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例：　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　／　Lancet. 2015 Dec（オンライン）

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	武山直志	救命救急科	呼吸管理	内科学書改訂第9版 2019、1、224-226	Review
2	武山直志	救命救急科	顔面頸部外傷	1336専門家による私の治療2019-20年度版 2019、33 :5-9	Review
3	富野 敦稔, 津田雅庸, 寺島嗣明	救命救急科	REBOAが有用であった会陰部・直腸損傷を合併した骨盤開放骨折の2例	日本外傷学会雑誌 2019, 33 :5-9	Case report
4	津田雅庸, 富野敦稔, 大石大	救命救急科	排気ダクト内の陰圧環境に起因した低酸素血症を認めた1例	日本外傷学会雑誌 2019, 33 :5-9	Case report
5	古川洋志・横尾和久	形成外科	形成外科の治療指針update 2019 Ⅱ 皮膚軟部組織疾患 2. 腫瘍・膿腫 n. 有棘細胞癌	形成外科, 2019.6; 62増刊号: S68.	Review
6	古川洋志	形成外科	特集／皮膚悪性腫瘍はこう手術する－Oncoplastic Surgeryの実際－ 足趾の悪性黒色腫	PEPARS, 2019.8; 152: 80-1.	Review
7	古川洋志・山本有平・前田拓	形成外科	先天性顔面神経麻痺に対するネットワーク型神経再建を行った1例	日本頭蓋顎顔面外科学会誌; 2019.6; 35(3): 84-8.	Case report
8	古川洋志	形成外科	体表面の血管腫・血管奇形の診断と治療の基本	愛知小児科医会会報; 2019.12: 110: 33-8.	Review
9	古川洋志・七戸龍司・山本有平	形成外科	顔面神経麻痺のネットワーク型神経再建～基礎と臨床	Peripheral Nerve 末梢神経; 2019.12: 30(2): 161-2.	Review
10	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	同種造血幹細胞移植;GVHD、GVL効果	血液専門医テキスト(改訂3版) P157-162 南江堂	Others
11	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	血球貪食症候群	血液専門医テキスト(改訂3版) P403-411 南江堂	Others
12	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	イメカラ(イメージできるからだのしくみ)血液	イメカラ(イメージできるからだのしくみ)血液第1版	Others
13	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	6急性骨髄性白血病	新臨床内科学第10版 P1071-1074 第8章血液・造血器疾患 ㈱医学書院	Others
14	高見 昭良	愛知医科大学 血液内科	科学的根拠に基づいた血小板製剤の使用ガイドライン:血液内科領域を中心に	血液内科79巻2号 Page247-251(2019)	Others

15	高見　昭良	愛知医科大学　血液内科	検査項目と異常値からみた緊急・重要疾患レッドページ〔7章 血液・造血器疾患〕血球貪食症候群	臨床検査　第63巻　第4号（4月・増刊号）別刷 2019.4.15	Others
16	高見　昭良	愛知医科大学　血液内科	同種造血幹細胞移植後生着不全の治療	血液内科　第79巻　第5号 619-622　2019.11	Others
17	高見　昭良	愛知医科大学　血液内科	1. 血球形態標準化小委員会報告-2019年の提言	日本検査血液学会　第20巻　第3号　465-496　2019	Others
18	花村　一朗	愛知医科大学　血液内科	Hope知ることからはじめよう　講演録1「骨髄腫セミナー2019」	多発性骨髄腫情報誌　がんばりまっしょい　第15号 2020年2月P4-33　日本骨髄腫患者の会	Others
19	花村　一朗	愛知医科大学　血液内科	多発性骨髄腫の進展に関わる分子機構とPBKの関与	BIO Clinica 34(6) 648 - 654 2019年6月	Others
20	花村　一朗	愛知医科大学　血液内科	多発性骨髄腫の分子病態研究の進歩	臨床血液　60巻(9)　1236-124	Others
21	花村　一朗	愛知医科大学　血液内科	多発性骨髄腫におけるPBK発現の意義と治療標的としての可能性	BIO Clinica 34(13) 1351 - 1355 2019年11月	Others
22	花村　一朗	愛知医科大学　血液内科	．多発性骨髄腫　4)ダラツズマブ	腫瘍内科24巻(6)　656-60	Others
23	花井莉菜, 鈴木佳克, 山本珠生, 他	産科・婦人科	胎児先天性総胆管嚢胞の1例	東海産科婦人科学会雑誌・2020.3, 56; 77-81	Case report
24	岡本知士, 鈴木佳克, 岩崎愛, 他	産科・婦人科	胎児診断が困難であった十二指腸閉鎖を合併したVACTERL連合の1例	東海産科婦人科学会雑誌・2020.3, 56; 83-8	Case report
25	橘 理香, 松下 宏, 花井莉菜, 他	産科・婦人科	腹腔鏡補助下造腟術(Davydov変法)を施行したMayer-Rokitansky-Kuester-Hauser症候群4症例の検討	東海産科婦人科学会雑誌・2020.3, 56; 199-205	Case report
26	古橋明文	愛知医科大学	下顎骨に転移したと考えられる髄膜腫の1例.	日本口腔外科学会雑誌 65(4),273-278, 2019	Original Article
27	二村 泰弘, 綿貫 博隆, 杉山 佳代,他	心臓外科	45年前に埋め込まれた Starr-Edwards ボール弁に対して大動脈弁再置換術を施行した1例	日本心臓血管外科学会雑誌　2019 年 48 巻 5 号 p. 327-329 10月	Case report
28	Inoue T, Kitano R, Ito K, et al.	愛知医科大学病院　肝胆膵内科	Malignant melanoma in the pelvic cavity mimicking a gastrointestinal stromal tumor	Dig Liver Dis 2019 Aug;51:1194	Case report

29	横江 徳仁, 米澤 利幸, 柴田 寛史, 小坂 顕司, 松原 彩子, 加藤 俊夫, 田中 博之, 伊藤 理, 久保 昭仁, 山口 悦郎.	愛知医科大学病院	気管支鏡で診断したコクシジオイデス症の1例.	日本内科学会. 2019; 108(10): 2161-2165.	Case report
30	安藤宏明, 丹羽淳一, 泉雅之, 他	内科学講座（神経内科）	副鼻腔侵襲性アスペルギルス症の脳血管浸潤による脳梗塞で死亡したと考えられた1例.	脳卒中 2019.Nov;41:515-519	Original Article
31	岡田洋平	内科学講座（神経内科）	疾患特異的iPS細胞を用いた神経変性疾患の病態解析と新規治療法開発	臨床雑誌内科、2019年6号	Review
32	山本 さゆり, 舟木 康, 小笠原 尚高 他	総合診療科	慢性便秘診療ガイドライン時代の便秘診療　慢性便秘症の治療リナクロチド	消化器内科.2020; 2(1):59-66	Review
33	山本さゆり、春日井邦夫	総合診療科	慢性便秘症に精神・心理療法は有効か？	かかりつけ医のための便秘・便失禁診療 Q&A.2019;75-78	Review
34	山本さゆり	総合診療科	便秘症診断のコツ 過敏性腸症候群（IBS）と慢性便秘症の鑑別	なぜ？どうする？がわかる便秘症の診かたと治しかた.2019;15-17	Review
35	山本さゆり	総合診療科	消化器薬の選び方・使い方胃もたれ一機能性ディスペプシア	Medicina.2019;56:28-30	Review
36	山本さゆり、春日井邦夫	総合診療科	過敏性腸症候群	今日の疾患辞典（デジタル版）.2019	Review
37	山本さゆり	総合診療科	過敏性腸症候群（IBS）	今日の患者説明資料.2019	Review
38	山本さゆり	総合診療科	便秘症患者における睡眠状態と生活習慣との関連- インターネットサーベイ Reaction-J の結果から-	Pharma Medica.2019；37：No10	Review
39	中川 紘明	総合診療科	【症状・治療歴から考える-薬の副作用の診断プロセス問題集60題】2日前からめまい・嘔気のある30歳女性	Medicina.2020；57（3）：539-540	Review

40	中川 紘明	総合診療科	【症状・治療歴から考える-薬の副作用の診断プロセス問題集60題】両下腿浮腫のある76歳女性	Medicina.2020;57(3):463-464	Review
41	中川 紘明,宮田 靖志	総合診療科	Quiz 何を考えますか? 「飲み込むたびに首が痛いんです・・・」と30歳代女性が	プライマリ・ケア.2019;4(4):60	Review
42	中川 紘明,宮田 靖志	総合診療科	Quiz 何を考えますか? 「急に左半身に力が入らなくなったんです…」と70歳代女性が	プライマリ・ケア.2019;4(3): 60	Review
43	中川 紘明,宮田 靖志	総合診療科	【しまった!日常診療のリアルから学ぶ-エラー症例問題集】(Question55)成人Still病の可能性はいかがでしょうか?	Medicina.2019;56(5):717-719	Review
44	中川 紘明,宮田 靖志	総合診療科	【しまった!日常診療のリアルから学ぶ-エラー症例問題集】(Question54)胃がん検診で異常を指摘されたんです	Medicina.2019;56(5):715-716	Review
45	中川 紘明,宮田 靖志	総合診療科	【しまった!日常診療のリアルから学ぶ-エラー症例問題集】(Question38)便秘ですね	Medicina.2019;56(5):677-679	Review
46	中川 紘明,宮田 靖志	総合診療科	【しまった!日常診療のリアルから学ぶ-エラー症例問題集】(Question5)歩くたびに右の背中が痛くなるんです	Medicina.2019;56(5):597-598	Review
47	中川 紘明,宮田 靖志	総合診療科	Quiz 何を考えますか? 「腰が痛いんです…」と60歳代女性が	プライマリ・ケア.2019;4(2): 65	Review
48	小野内 健太,藤巻 恵理子,塚本 実奈子	中央臨床検査部	当院におけるパニック値報告の現状	らぼ: 社団法人愛知県臨床衛生検査技師会誌 70巻 Page59(2019.06)	Others
49	中山 享之	中央臨床検査部	大量出血の対応 クリオプレシピテートの有用性と愛知医大における供給体制	日本輸血細胞治療学会誌 (1881-3011)65巻6号 Page916(2019.12)	Others
50	中山 享之	中央臨床検査部	タンパク質S欠乏患者における皮斑様血管障害と膝窩動脈閉塞	臨床病理 (0047-1860)67巻補冊 Page280(2019.10)	Case report
51	寺田 達夫,大坪 弘明,藤巻 恵理子	中央臨床検査部	FreeStyleリブレ導入後のHbA1c値の改善効果について	日本臨床検査自動化学会会誌 (0286-1607)44巻4号 Page533(2019.08)	Others

52	小山 悠里江, 杉浦 紀子, 井上 真由利	中央臨床検査部	ISO15189未認定施設が同認定に準拠したSOPを整備する意義	日本臨床検査自動化学会会誌 (0286-1607)44巻4号 Page526(2019.08)	Others
53	鈴木 崇峰, 榎本 めぐみ, 塚本 実奈子	中央臨床検査部	当院における可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)検査の現状	日本臨床検査自動化学会会誌 (0286-1607)44巻4号 Page521(2019.08)	Others
54	森部 龍一, 仲上 祐也, 榎本 めぐみ	中央臨床検査部	コアグピアPT-Liquid試薬の基礎的検討	日本臨床検査自動化学会会誌 (0286-1607)44巻4号 Page495(2019.08)	Others
55	柴田 由加, 姫野 龍仁, 谷 浩也	中央臨床検査部	神経障害　携帯型末梢神経検査装置PNS-7000を用いた電流痛覚閾値と糖尿病性多発神経障害との相関の検討	糖尿病合併症 33巻 Suppl.1 Page189(2019.09)	Others
56	高木 真子, 柴田 由加, 谷 浩也	中央臨床検査部	糖尿病患者における心電図CVR-R測定(安静・深呼吸)に関する検討	糖尿病 (0021-437X)62巻 Suppl.1 Page S-277(2019.04)	Others
57	柴田 由加, 姫野 龍仁, 西原 真理	中央臨床検査部	表皮内刺激装置(PNS-7000)を用いた糖尿病性多発神経障害の病態評価について	糖尿病 (0021-437X)62巻 Suppl.1 Page S-235(2019.04)	Others
58	安藤 菜奈子, 柴田 由加, 神谷 妙子	中央臨床検査部	欠神発作における過呼吸賦活について	日本医学検査学会抄録集 68回 Page265(2019.05)	Others
59	木場 久美子, 黒田 康子, 長谷川 恵子	中央臨床検査部	小児慢性機能性便秘における超音波検査	超音波医学 (1346-1176)46巻Suppl. Page S736(2019.04)	Case report
60	寺田 達夫(愛知医科大学病院 中央臨床検査部), 菊地 良介, 佐野 俊一	中央臨床検査部	都道府県臨床検査技師会外部精度管理調査の在り方について-医療法改正を受けて- 外部精度管理の在り方について　愛知県の対応	日本医学検査学会抄録集 68回 Page np32(2019.05)	Others
61	寺嶋祐貴, 西原真理, 牛田享宏	痛みセンター	【特集:脊椎由来の痛み・しびれの診かた】痛み・しびれにおける心理社会的要因の診かた	MB Orthopaedics. 2020;33(3):64-72.	Review
62	牛田享宏, 寺嶋祐貴, 尾張慶子, 他.	痛みセンター	慢性疼痛:集学的アセスメントとリハビリテーション治療	Rehabilitation Medicine. 2020;57(2):154-159	Review
63	牛田享宏	痛みセンター	【学会を聞く】第41回日本疼痛学会を主催して	整形外科. 2020;71(2):187-189	Review

64	井上真輔	痛みセンター	【痛み診療に携わる医療者の育成】集学的痛みセンターで行う医療者の育成	ペインクリニック. 2020;41(2):209-214.	Review
65	寺嶋祐貴, 井上真輔, 牛田享宏	痛みセンター	腰痛診療 perspective】腰痛診療　慢性腰痛に対する集学的治療	Pharma Medica. 2020;38(1):33-37	Review
66	井上真輔	痛みセンター	【慢性疼痛-その治療にどう多角的に向き合うか】慢性疼痛に対する集学的治療	医学と薬学. 2019;77(1):53-60	Review
67	西原真理	痛みセンター	世界の医学誌から: ガバペンチノイドは自殺や交通事故と関連（BMJ論文解説）	MMJ12・1月号. 毎日新聞出版	Review
68	櫻井博紀, 佐藤純, 青野修一, 他.	痛みセンター	気象関連性疼痛を訴える慢性疼痛患者の特徴と運動療法	PAIN RESEARCH. 2019;34(4):336-341	Review
69	西原真理	痛みセンター	【抗てんかん薬の持つさまざまな向精神作用】Pregabalinの適応疾患と依存性の問題	精神科治療学. 2019;34(12):1415-1419	Review
70	西原真理	痛みセンター	【慢性疼痛update-実地診療に役立つ最新知見-】慢性疼痛に対する精神・心理療法	日本臨床. 2019;77(12):2052-2057	Review
71	寺嶋祐貴, 牛田享宏	痛みセンター	【慢性疼痛update-実地診療に役立つ最新知見-】慢性疼痛治療ガイドライン	日本臨床. 2019;77(12):1917-1922.	Review
72	西原真理	痛みセンター	【脊椎疾患・関節疾患による慢性疼痛治療update】慢性疼痛に対する心理的アプローチ	整形・災害外科. 2019;62(11):1381-1388.	Review
73	西須大徳, 西原真理	痛みセンター	ガイドライン　ココだけおさえる　慢性疼痛治療ガイドライン	日本医事新報. 2019;4963:34-37.	Review
74	牛田享宏	痛みセンター	【運動器慢性疼痛マネージメントにおけるリハビリテーション診療の意義と重要性】本邦における慢性疼痛に対する集学的治療の構築に向けて.	MEDICAL REHABILITATION. 2019;242:1-8	Review
75	井上雅之, 井上真輔, 牛田享宏.	痛みセンター	【脊椎疾患・関節疾患による慢性疼痛治療update】慢性疼痛に対する集学的治療	整形・災害外科. 2019;62(11):1389-1397.	Review

76	青野比奈子, 井上雅之, 水野裕子, 他.	痛みセンター	【痛み診療におけるメディカルスタッフの役割-集学的診療の様々な形態-】慢性疼痛診療における多職種連携　看護師および理学療法士の役割	ペインクリニック. 2019;40(8):1042-1051	Review
77	櫻井博紀, 牛田享宏	痛みセンター	【神経障害性疼痛と理学療法】神経障害性疼痛に対する運動療法.	理学療法. 2019;36(6):522-531.	Review
78	永井修平, 尾張慶子, 牛田享宏	痛みセンター	【神経障害性疼痛と理学療法】神経障害性疼痛の病態と最新の治療	理学療法. 2019;36(6):484-494.	Review
79	井上雅之, 井上真輔, 中田昌敏, 他.	痛みセンター	【実践!ペイン・リハ-慢性疼痛治療の変革】《ペイン・リハ実践　治療編》患者教育、慢性痛教室.	Modern Physician. 2019;39(6):549-551	Review
80	尾張慶子, 牛田享宏	痛みセンター	【整形外科医が知っておきたい薬の知識-私はこう使う-】病態からみた治療薬　非特異性腰痛	Orthopaedics. 2019;32(5):1-7.	Review
81	西須大徳, 西原真理	痛みセンター	【整形外科医が知っておきたい薬の知識-私はこう使う-】薬物の特性とその効果的処方　その他の疼痛治療薬(ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液、アミトリプチリン、NMDA受容体拮抗薬、抗不安薬).	Orthopaedics. 2019;32(5):133-137.	Review
82	尾張慶子, 西原真理	痛みセンター	【"ナゾ"の痛み診療ストラテジー　OPQRSTで読み解く】慢性疼痛の集学的治療の実際・課題・今後の展望.	総合診療. 2019;29(4):455-459.	Review
83	都築豊徳	病理診断科	腎がんに対する免疫療法におけるバイオマーカー開発の現況	泌尿器科11巻3号 Page333-343(2020.03)	Review
84	高原大志, 都築豊徳	病理診断科	Cancer-Immunological Topics バイオマーカー【腎細胞癌】VEGF、Treg、MDSCを中心に	がん免疫療法3巻2号 Page109-111(2019.11)	Review
85	都築豊徳	病理診断科	基礎　前立腺癌の病理診断	Espoir2巻1号 Page17-23(2019.05)	Review

86	都築豊徳，露木琢司，高原大志	病理診断科	【前立腺癌の画像診断update】MRIで検出できない前立腺癌の病理組織学的な特徴	臨床画像35巻5号 Page549-557(2019.05)	Review
87	高原大志，都築豊徳	病理診断科	【肉眼病理-症例から探る鑑別のヒント-】(第11章)尿路・前立腺・膀胱　前立腺導管腺癌	病理と臨床37巻臨増 Page283-285(2019.04)	Review
88	高原大志，都築豊徳	病理診断科	【肉眼病理-症例から探る鑑別のヒント-】(第11章)尿路・前立腺・膀胱　良性前立腺肥大	病理と臨床37巻臨増 Page273-275(2019.04)	Review
89	北川晃、成田晶子、松永望、他.	放射線科	静脈奇形に対するIVR	静脈学. 2019;30:299-304.	Review
90	山本貴浩、成田晶子、松永望、他.	放射線科	肝外発育を呈した multicystic biliary hamartoma の1例	臨床放射線. 2019; 64:909-913	Case report
91	岩山秀之	小児科	MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発および発達遅延児を対象とした大規模遺伝子解析.	成長科学協会研究年報. 2019;42:165.	Original Article
92	兒玉俊介、堀壽成、増田雄　他	小児科	小児のマイコプラズマ感染症の検査および治療に関する調査.	小児科臨床. 2019;72:1575-80.	Original Article
93	深見保之	愛知医科大学　消化器外科	肝臓の治療とケア	消化器ナーシング 2019.5;24(5):440-7	Original Article
94	深見保之、有川卓、大澤高陽、加藤翔子、松下希美、原田正晴、鈴木健太、戸田瑶子、内野大倫、倉橋真太郎、松村卓樹、齊藤卓也、小松俊一郎、金子健一朗、佐野力	愛知医科大学　消化器外科	特集　見せます！できる外科医のオペ記事-肝胆膵高度技能医はこう描く　高度技能専門医・指導医の書いたオペ記事　膵頭十二指腸切除 Pancreatoduodenectomy	臨床外科 2019.12;74(13):1461-71	Case report
95	加藤翔子、金子健一朗、松下希美	愛知医科大学　消化器外科	Congenital pouch colon に persistent descending mesocolon を伴った1例	日本小児外科学会雑誌 2019.5;55(6):1112-7	Case report
96	金子健一朗	愛知医科大学　消化器外科	膵・胆管合流異常	胆と膵 2019.11;40(臨時増刊特大号):1047-50	Original Article

97	金子健一朗	愛知医科大学　消化器外科	肝外胆管切除＋肝管消化管吻合術（胆道拡張症）	小児外科 2020.2;52(2):181-5	Original Article
98	金子健一朗	愛知医科大学　消化器外科	膵・胆管合流異常の病態と治療のトピックス	胆道 2020.3;34(1):14-20	Original Article
99					
～					

計 98 件

（注）1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	有・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・　手順書の主な内容 ●倫理審査業務手順書（委員向け） →総則，用語の定義，審査の流れ，医学部長の要件・責務，医学部長等の責務，倫理委員会の役割・責務，専門委員会の役割・責務等 ●倫理審査申請者標準業務手順書（研究者向け） →基本的事項，研究者等の責務，研究の実施，インフォームド・コンセント，個人情報保護，匿名加工情報，重篤な有害事象への対応，研究の信頼性確保等	
③　倫理審査委員会の開催状況	年12回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
　　2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・　規定の主な内容 1　利益相反委員会規程：利益相反を審査し、適切に管理・検討するための委員会規程 2　利益相反規程：利益相反の管理に関する規程	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年１回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年１回
・研修の主な内容 「医学研究において求められる利益相反管理」 講師：東京医科歯科大学研究・産学連携機構　飯田香緒里教授 2020年２月26日	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

消化器内科内科学専門医養成コース　循環器専門医養成コース　呼吸器病学・アレルギー学及び臨床腫瘍学専門医養成コース　内分泌・代謝・糖尿病専門医コース　神経内科専門医養成コース　腎臓・膠原病内科関連専門医・学位取得コース　血液学専門医養成コース　総合診療科全人的診療医養成コース　リウマチ学・アレルギー学専門医養成コース　睡眠医療認定医取得コース　集中的脳卒中診療研修コース　輸血・細胞治療学認定医養成コース　病理・細胞診専門医コース　感染症専門医/インフェクションコントロール・ドクター養成コース　精神科学専門医養成コース　小児科学専門医養成コース　皮膚科専門医取得コース　放射線科専門医取得コース・放射線科治療専門医取得コース　日本外科学会専門医取得コース　消化器外科学専門医養成コース　心臓外科学専門医養成コース　血管外科専門医養成コース　呼吸器外科学専門医養成コース　乳腺専門医養成コース　脳神経外科専門医養成コース　整形外科専門医養成コース　泌尿器科専門医養成コース　産婦人科卒後6年間コース　形成外科学専門医養成コース　眼科専門医取得コース　耳鼻咽喉科専門医養成コース　リハビリテーション専門医取得コース　救命救急科専門医コース　麻酔専門医養成コース　日本ペインクリニック専門医取得コース　口腔外科専修医取得コース

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	175人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
春日井邦夫	内科	教授	35 年	消化管内科
米田政志	内科	教授	37 年	肝胆膵内科
天野哲也	内科	教授	31 年	循環器内科
伊藤　理	内科	教授	26 年	呼吸器・ｱﾚﾙｷﾞｰ内科
道勇　学	内科	教授	35 年	神経内科，脳卒中ｾﾝﾀｰ
伊藤恭彦	内科	教授	38 年	腎臓・ﾘｳﾏﾁ膠原病内科
高見昭良	内科	教授	29 年	血液内科
中村二郎	内科	教授	39 年	糖尿病内科，糖尿病ｾﾝﾀｰ
兼本浩祐	精神科，神経科	教授	37 年	精神神経科，こころのｹｱｾﾝﾀｰ
奥村彰久	小児科	教授	31 年	小児科
佐野　力	外科	教授	34 年	消化器外科

松山克彦	心臓血管外科	教授	29 年	心臓外科
石橋宏之	心臓血管外科	教授	38 年	血管外科
羽生田正行	呼吸器外科	教授	39 年	呼吸科外科
中野正吾	外科	教授	29 年	乳腺・内分泌外科
小林孝彰	外科	教授	35 年	腎移植外科
宮地　茂	脳神経外科	教授	37 年	脳神経外科, 脊椎脊髄ｾﾝﾀｰ
出家正隆	整形外科	教授	32 年	整形外科
渡邉大輔	皮膚科	教授	27 年	皮膚科
佐々直人	泌尿器科	教授	29 年	泌尿器科
若槻明彦	産婦人科	教授	36 年	産科・婦人科, 周産期母子医療ｾﾝﾀｰ
瓶井資弘	眼科	教授	32 年	眼科
藤本保志	耳鼻咽喉科	教授	30 年	耳鼻咽喉科
鈴木耕次郎	放射線科	教授	24 年	放射線科
藤原祥裕	麻酔科	教授	33 年	麻酔科
前川正人	内科	教授	35 年	総合診療科, ﾌﾟﾗｲﾏﾘｰｹｱｾﾝﾀｰ
古川洋志	形成外科	教授	29 年	形成外科
武山直志	救急科	教授	40 年	救命救急科, 救命救急ｾﾝﾀｰ
木村伸也	リハビリテーション科	教授	38 年	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科, ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ部
篠邉龍二郎	内科	教授	30 年	睡眠科
三鴨廣繁	内科	教授	31 年	感染症科, 感染制御部
都築豊徳	病理診断科	教授	31 年	病理診断科
風岡宜暁	歯科口腔外科	教授	36 年	歯科口腔外科
加藤栄史	内科	教授	36 年	輸血部, 細胞治療ｾﾝﾀｰ
牛田享宏	整形外科	教授	29 年	痛みｾﾝﾀｰ

山田恭聖	小児科	教授	26 年	周産期母子医療ｾﾝﾀｰ
三嶋秀行	外科	教授	36 年	臨床腫瘍ｾﾝﾀｰ, 臨床研究支援ｾﾝﾀｰ
久保昭仁	内科	教授	33 年	臨床腫瘍ｾﾝﾀｰ
森　直治	外科	教授	31 年	緩和ｹｱｾﾝﾀｰ
畠山　登	麻酔科	教授	31 年	周術期集中治療部
福沢嘉孝	内科	教授	36 年	先制・統合医療包括ｾﾝﾀｰ

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修　無回答

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	１．計画　　２．現状
管理責任者氏名	医療情報部長　深津　博
管理担当者氏名	医事課　竹崎武，高橋功　　病院管理課　市川光生 地域医療連携課　長江二三子　　医療情報管理課　加藤真一 薬剤部　大西正文　　医療安全管理室　杉本郁夫 感染管理室　三鴨廣繁　　臨床工学部　天野哲也

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課	外来カルテ・入院カルテともに，電子カルテとなっている。 病歴資料については一患者一番号でカルテと一体になっている。 診療録の院外持出しは認めていない。
		各科診療日誌	病院管理課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	中央ｶﾙﾃ室	
		看護記録	中央ｶﾙﾃ室	
		検査所見記録	中央ｶﾙﾃ室	
		エックス線写真	サーバー	
		紹介状	中央ｶﾙﾃ室	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央ｶﾙﾃ室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
		高度の医療の研修の実績	病院管理課	
		閲覧実績	医療情報管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療情報管理課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報管理課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部	
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室	
		職員研修の実施状況	医療安全管理室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室	
		管理者が有する権限に関する状況	総務・秘書室	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務・秘書室	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務・秘書室	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第 6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	１．計画	２．現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長　小寺努		
閲覧担当者氏名	病院管理課長　市川光生		
閲覧の求めに応じる場所	会議室又は諸記録閲覧室		
閲覧の手続の概要 申し出があり次第，上長の承認を得てから閲覧する。			

（注）既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　件
	歯科医師	延　件
	国	延　件
	地方公共団体	延　件

（注）特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： １．安全管理のための基本的な考え方 ２．医療安全管理責任者の設置 ３．安全管理の体制確保のための委員会 ４．医療安全管理室の設置 ５．医療安全管理者の設置 ６．セーフティマネージャーの設置 ７．患者相談窓口の設置 ８．医薬品安全管理責任者等の設置 ９．医療機器安全管理責任者等の設置 10. 医療事故発生時の対応方法等 11. 安全管理のための職員研修 12. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供 13. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： １．医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。 ２．病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 ３．２の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。 ４．３の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 ５．入院患者の死亡例，特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること ６．５の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること。 ７．医療の安全管理の情報交換に関すること。 ８．医療の安全管理のための教育・研修に関すること。 ９．その他医療の安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年43回
・ 研修の内容（すべて）： １．医療安全講演会 （２回） ２．医薬品・医療機器安全講演会 （１回） ３．ＡＥＤを使用した心肺蘇生法 （８回） ４．エコーを使用したＣＶカテーテル挿入法 （３回） ５．ＰＩＣＣ研修 （１回） ６．医療安全アカデミー （12回） ７．臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」（１回） ８．新規採用医師ガイダンス （１回）（指針・マニュアル等の研修） ９．中途採用職員（看護師除く）ガイダンス （10回）（指針・マニュアル等の研修） 10. 中途採用看護師ガイダンス（３回）（指針・マニュアル等の研修） 11. 新規採用職員ガイダンス （１回）（指針・マニュアル等の研修）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： １．医療安全管理マニュアルの改正 ２．医療安全に関する再発防止策等の報告書提出と実施の確認	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染のための委員会及び感染対策関連組織に関する基本的事項 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 感染の発生状況の報告に関する基本方針 院内感染発生時の対応に関する基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他、院内感染対策推進のために必要な基本方針	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： 毎月１回第２火曜日に定例開催し、次に掲げる事項の審議、報告を実施 感染予防対策の確立に関すること。 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 感染予防の教育に関すること。 感染に関する事故等が発生した場合における原因究明に関すること。 その他感染予防に関すること。	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 23 回
・ 研修の内容（すべて）： 感染予防に関する講演会（年３回） キャリア・ディベロップメント講座（年７回） 清掃委託業者への研修（年２回） 院内で従業する委託業者への研修（年２回） 愛知県実践感染症カンファランス（年６回） 新規採用者ガイダンス（年１回） 研修医オリエンテーション（年１回） 新規採用看護師オリエンテーション（年１回）	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ＩＣＴによるラウンドの実施 リンクナースによる感染対策推進活動の実施 ＳＳＩサーベイランスの実施 ＩＣＵサーベイランスの実施 ＢＳＩサーベイランスの実施 全病院サーベイランスの実施 耐性菌サーベイランスの実施	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・　研修の主な内容： 医療ガスの取り扱いについて（令和元年7月2日） 医療用麻薬使用時の注意点　（令和元年7月12日）	
③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・　手順書の作成　（　有・無　） ・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 1. 医薬品の採用と医薬品購入、 2. 医薬品の管理に関すること、 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関すること、 4. 患者に対する与薬および薬剤管理指導業務に関すること、 5. 医薬品の安全使用に係わる情報収集・管理・提供に関すること、 6. 在宅患者への医薬品使用に関すること、 7. 他施設との連携に関する事項、 8. 医薬品の安全使用のための業務手順書に関する研修に関すること、 9. 未承認新規医薬品等の適正使用に関すること	
④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医薬品に係る情報の収集の整備　（　有・無　） ・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・小口径ステント、カバードステント（ステントグラフト）：チムニーステント併用大動脈ステントグラフト手術時のチムニー用ステント ・リツキシマブ：再発・難治性の血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）に対する治療 ・シクレソニド（オルベスコ®200μgインヘラー56吸入用）：COVID-19患者への投与等 ・　その他の改善のための方策の主な内容： 1. 未承認新規医薬品等評価部門の設置 2. 入退院センターに薬剤師の増員（手術前・検査前中止薬の確認と相談） 3. 病棟担当者による翌日使用分注射薬セットの監査（入院患者注射施用の安全性確保） 4. 外来でのがん疼痛患者への服薬指導（抗がん剤の安全使用） 5. 外来窓口でのがん患者服薬指導開始（抗がん剤の安全使用） 6. DICSPSを使用して医薬品の安全管理	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年　２　回
・　研修の主な内容： 新規に導入された装置の取り扱い説明などをメーカーに依頼している。 既に導入された装置は、メーカーや臨床工学技士が使用法や安全講習を行っている。 専任の技士等は、メーカーや関係学会等で行われる安全講習などを受講している。	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　　（　有・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： 機器の添付文書に沿った点検を行っている。 定期点検は、メーカーに依頼して行っている。 始業点検・終業点検は、装置に合わせて行っている。 点検には、専用の点検簿を使用し記録を残している。	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　　（　有・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 未承認機器の使用は、血管外科から、小口径ステントカバードステントの適応外使用について申請があり、評価部門で審議を行い適当と判断した。 ・　その他の改善のための方策の主な内容：情報収集には、PMDAやメーカー・業者や学会などのホームページやメールを利用している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無

・責任者の資格（医師・歯科医師）
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

- 医療安全管理責任者は，医療安全，医薬品安全及び医療機器安全について必要な知識を有する副院長（医療安全担当）をもって充てている。
- 医療安全管理責任者は，副院長として病院長の医療安全管理業務を補佐している。
- 医療安全管理室員，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者を構成員とする医療安全管理部門会議を毎週開催し，院内の医療安全に関する情報の収集，改善方策の検討，指示等を行っている。
- 医療安全管理委員会の委員長となっている。
- 医療事故発生時の医療問題検討会の委員長となっている。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 13 名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況

・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況

・医薬品・医療機器等安全性情報とDSUは全病院職員にメールをしている。

・回収案内に対して迅速に行動している（全病院職員にメール、院内にある在庫の回収等）

・副作用情報の収集を行い、医療安全へ報告を行っている。

・薬剤部員に対して、新規採用医薬品や限定購入医薬品の薬の情報を伝える。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

以下の方法にて未承認等の医薬品の使用状況を把握し、④⑤⑥⑦については必要がある場合には未承認新規医薬品等評価部門への申請を依頼。

① 診療科からの未承認新規医薬品等評価部門への申請

② 医師からの使用成績報告書の提出

③ 院内製剤の処方歴

④ 病棟担当薬剤師からの情報提供

⑤ 調剤室、注射室担当薬剤師からの情報提供

⑥ 薬剤部（DI 室、未承認新規医薬品等評価部門等）への問い合わせ

⑦ 医事算定データの査定データから、適応外使用の可能性があるもの（A・D）について確認

・担当者の指名の有無（有・無）

未承認新規医薬品等評価部門長　　大西正文

未承認新規医薬品等評価部門委員　　天野哲也、牛田亨宏、前川正人、加藤栄史、

	宇野英里子、野々垣知行
未承認新規医薬品等評価部門事務局	深谷さおり、黒瀬優輔
未承認新規医薬品等評価委員会委員長	牛田亨宏
未承認新規医薬品等評価委員	前川正人、加藤栄史、三嶋秀行、杉本郁夫、野田貴幸

・担当者の所属・職種：

（大西正文　所属：薬剤部，職種　薬剤師）（天野哲也　所属：循環器内科，職種　医師）

（牛田亨宏　所属：痛みセンター，職種　医師）（前川正人　所属：総合診療科，職種　医師）

（加藤栄史　所属：輸血部，職種　医師）（宇野英里子　所属：薬剤部，職種　薬剤師）

（野々垣知行　所属：薬剤部，職種　薬剤師）（深谷さおり　所属：薬剤部，職種　薬剤師）

（黒瀬優輔　所属：薬剤部，職種　薬剤師）（三嶋秀行　所属：臨床腫瘍センター，職種　医師）

（杉本郁夫　所属：医療安全管理室，職種　医師）（野田貴幸　所属：薬剤部，職種　薬剤師）

④　医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（　有・無　）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：各科診療録監査者が電子カルテに署名のある同意書がスキャンに取り込みされているか、同意取得の概略が診療録に記載されているかの確認を行い、記載がなければ主治医・担当医に指導を行う。インフォームド・コンセント推進委員会を開催し、説明・同意文書の確認、ＩＣ診療録記載の検証を行い、不適切事例には指導を行う。

⑤　診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療録記載不備に対する項目を主治医に通知し、追記および訂正を依頼する。

毎週月曜日に、各診療科全体の記載不備事項を各診療科部長および医局長に通知する。

サマリー完成率を部長会医局長会で通知ならびに記載遅滞医師を公表する。

診療録管理委員会を開催し適切な診療録記載を指導する。

⑥　医療安全管理部門の設置状況	有・無

・所属職員：専従（11）名、専任（　）名、兼任（　3）名

うち医師：専従（ 1）名、専任（　）名、兼任（　3名

うち薬剤師：専従（ 1）名、専任（　）名、兼任（　）名

うち看護師：専従（ 3）名、専任（　）名、兼任（　）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

１．医療の安全を確保するための改善方策に関すること。
２．医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること。
３．医療事故発生時の対応に関すること。
４．医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握
５．職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認
６．医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること。
７．医療安全管理に関する院内の連絡調整
８．その他医療安全管理に関する業務

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

・中心静脈カテーテル挿入時には「中心静脈カテーテル挿入時のチェック項目表」を記載し，医療安全管理室に提出後，電子カルテにスキャンして保存する。合併症等が発生した場合は「中心カテーテル挿入に関する合併症報告」を記載し，医療安全管理室に提出する。
・医療安全に関する講演会，研修会でアンケートを実施し，認識や理解度を確認している。
・全職員対象に「医療安全文化に関する意識調査」を実施し，結果を職種ごとに考察している。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（１件）、及び許可件数（１件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・活動の主な内容：

・診療科の長から高難度規程第5条第1項の規程に基づく申請が行われた場合において，当該申請の内容を確認するとともに，高難度新規医療技術評価委員会（以下「委員会」という）に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否，実施を認める条件等について意見を求めること。
・高難度新規医療技術の提供の適否，実施を認める条件等についての意見の求めに応じ，委員会が述べた意見を踏まえ，当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し，申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書により通知すること。
・高難度規程に基づき，定期的に，及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には，その都度診療録等の記載内容を確認し，当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか，職員の遵守状況を確認すること。
・高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき，及び前号により職員の遵守状況を確認したときは，その内容について病院長に報告すること。

・委員会での審査資料及び議事概要並びに職員の遵守状況の確認記録を審査の日又は確認の日から少なくとも５年間保存すること。
・委員会に係る事務を行うこと。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（23 件）、及び許可件数（23 件）
・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
・活動の主な内容：
  ・未承認新規医薬品等使用申請の内容確認、評価委員会への審議依頼、使用の適否等の決定、申請資料・調査資料等の保管
  ・申請医薬品使用患者のカルテ・順守状況等の確認、使用成績報告書の確認
  ・上記内容につき院長への報告書を適宜作成、月間報告書の作成

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 （ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 512 件
・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 21 件
・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  １．入院患者の死亡例，特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。
  ２．１の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること。

⑩　他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（　有（病院名：福岡大学病院　）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（　有（病院名：福岡大学病院　）・無）

・技術的助言の実施状況

助言内容：医師にインシデント報告の重要性を指導し，報告の徹底を図ることにより，さらなるインシデント報告件数の増加へ繋げることができると思われる。

実施状況：医師からのインシデント報告件数の目標が，年間全体件数の10%以上となるよう，引き続き指導強化している。

⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

① 患者相談窓口を中央棟１階15番窓口に設置している。
② 担当者は，看護師，薬剤師，社会福祉士又はその他医療有資格者等としている。
③ 責任者は，医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）としている。
④ 対応時間は，月曜日から金曜日（祝日・休日・年末年始を除く）午前８時30分から午後５時15分までとしている。
⑤ 患者・家族等からの苦情・相談については病院長に報告するとともに，関係部署に対しても報告し，速やかな解決に向けた連絡調整を行っている。
⑥ 担当者及び関係者の守秘義務について医療安全管理マニュアルに明記している。
（医療安全管理マニュアル　015　患者相談窓口設置要綱　に明記）
⑦ 担当者及び関係者は，苦情・相談により患者や家族が不利益を受けないよう適切な配慮をしなければならないことを医療安全管理マニュアルに明記している。
（医療安全管理マニュアル　015　患者相談窓口設置要綱　に明記）
⑧ 担当者及び関係者は，患者，家族等からの苦情・相談内容の秘密保護に努めなければならないことを医療安全管理マニュアルに明記している。
（医療安全管理マニュアル　015　患者相談窓口設置要綱　に明記）
⑨ 患者相談窓口があることについて，ホームページ，院内掲示や入院・外来パンフレットにより患者・家族に案内している。

⑫　職員研修の実施状況

・研修の実施状況

○　医療安全管理に係る職員研修実施要領において，研修項目として次の事項を定めている。

《医療安全管理に関する職員研修》

・インシデント報告，アクシデント報告等の流れ，医療安全に係る具体的事例の改善策等に関する事項
・インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の遵守状況に関する事項
・診療録管理規程の遵守状況に関する事項
・職員の安全意識の状況に関する事項
・医療安全に資する診療内容のモニタリングに関する事項
・高難度新規医療技術の提供に関する規程の遵守状況に関する事項
・未承認新規医薬品等の使用に関する規程の遵守状況に関する事項
・医療安全の確保に関する監査委員会からの意見に関する事項
・全死亡例報告，特異事例報告に関する事項
・私立大学病院相互ラウンドに関する事項
・患者相談に関する事項
・医療安全に関する情報提供受付窓口の使用方法に関する事項
・医師，歯科医師，薬剤師，看護師その他の職員が連携及び協働して医療を提供するために必要な知識及び技能であって，高度の医療を提供するために必要な事項

《医薬品の安全使用に関する職員研修》
・医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項
・医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項
・医薬品による副作用等が発生した場合の対応(施設内での報告、行政機関への報告等)に関する事項
《医療機器の安全使用に関する職員研修》
・新しい医療機器の導入時の研修
・医療機器の有効性・安全性に関する事項
・医療機器の使用方法に関する事項
・医療機器の保守点検に関する事項
・医療機器の不具合等が発生した場合の対応(院内での報告、行政機関への報告等)に関する事項
・医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項

○ 開催頻度は，医療安全管理に関する職員研修は年に2回程度。医薬品・医療機器の安全使用に関する職員研修は必要に応じて実施しており，病院長等の講義，院内での報告会，事例分析，外部講師を招聘しての講習，外部の講習会・研修会の伝達報告会又は有益な文献の抄読等の方法によって行う。

○ 医療安全管理に関する職員研修に欠席した職員については，DVD鑑賞，e-learning等を活用して，全ての病院職員に研修内容の周知を図っている。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：

令和元年 10 月 27，28 日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人　日本医療機能評価機構）

医療安全管理責任者：

令和元年 12 月 17，18 日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人　日本医療機能評価機構）

医薬品安全管理責任者：

令和元年 12 月 17，18 日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人　日本医療機能評価機構）

医療機器安全管理責任者：

令和元年 7 月 20 日 医療機器安全管理責任者研修会受講（公益社団法人　日本臨床工学技士会）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

（様式第 6-3）

規則第７条の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 (1) 臨床医学部門の教授(大学附属施設，医学部附属施設及び研究所の臨床医学系教授を含む。)であること。 (2) 医療安全管理業務の経験，患者安全を第一に考える姿勢・指導力等の医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること。 (3) 医療機関等における経営管理に関する識見並びに組織管理経験等を含んだ組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有すること。 (4) 病院が懸案とする当面の課題を解決する意欲及び能力を有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 病院のホームページにて公表

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 病院のホームページにて公表	
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由	

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	特別の関係
祖父江元	愛知医科大学	○	本学理事長	(有)・無
佐藤啓二	〃		本学学長	(有)・無
若槻明彦	〃		本学医学部長	(有)・無
坂本真理子	〃		本学看護学部長	(有)・無
島田孝一	〃		本学法人本部長	(有)・無
羽根田雅巳	〃		本学事務局長	(有)・無
野田賢次郎	税理士法人コスモス　CEO		学識経験者のうちから理事会において選任した者(病院経営に関する高い識見を有している。)	有・(無)
吉田一平	長久手市長		学識経験者のうちから理事会において選任した者(地域医療連携に関する高い識見を有している。)	有・(無)

（様式第 6-3）

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容

一　病院の運営方針に関すること。
二　病院の中期計画に関すること。
三　病院内の諸規則及び制度の制定及び改廃に関すること。
四　各種の委員会の設置及び改廃に関すること。
五　病院の予算及び決算に関すること。
六　病院職員の人事に関すること。ただし，病院事務職員は除く。
七　病室及び病床等の運用に関すること。
八　医学部学生，看護学生等の臨床実習に関すること。
九　臨床研修医の研修に関すること。
十　その他病院の運営に関する重要事項

・審議の概要の従業者への周知状況

医局長会，看護師長会，業務連絡会等で周知

・合議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・公表の方法

（調整中）

・外部有識者からの意見聴取の有無（　有・無　）

合議体の委員名簿

氏名	委員長（〇を付す）	職種	役職
藤原祥裕	〇	医師	病院長
杉本郁夫		医師	副院長
天野哲也		医師	副院長
武山直志		医師	副院長
春日井邦夫		医師	副院長

（様式第 6-3）

道勇学		医師	副院長
中野正吾		医師	副院長
出家正隆		医師	副院長
井上里恵		看護師	副院長
馬場研二		医師	部長（メディカルクリニック）
米田政志		医師	部長（肝胆膵内科）
伊藤理		医師	部長（呼吸器・アレルギー内科）
伊藤恭彦		医師	部長（腎臓・リウマチ膠原病内科）
高見昭良		医師	部長（血液内科）
中村二郎		医師	部長（糖尿病内科）
兼本浩祐		医師	部長（精神神経科）
奥村彰久		医師	部長（小児科）
佐野力		医師	部長（消化器外科）
松山克彦		医師	部長（心臓外科）
石橋宏之		医師	部長（血管外科）
羽生田正行		医師	部長（呼吸器外科）
小林孝彰		医師	部長（腎移植外科）
宮地茂		医師	部長（脳神経外科）
渡辺大輔		医師	部長（皮膚科）
佐々直人		医師	部長（泌尿器科）
若槻明彦		医師	部長（産科･婦人科）
瓶井資弘		医師	部長（眼科）
柿崎裕彦		医師	部長（眼形成）
藤本保志		医師	部長（耳鼻咽喉科）
鈴木耕次郎		医師	部長（放射線科）
前川正人		医師	部長（総合診療科）
古川洋志		医師	部長（形成外科）
木村伸也		医師	部長（リハビリテーション科）
篠邉龍二郎		医師	部長（睡眠科）
三鴨廣繁		医師	部長（感染症科）
都築豊徳		医師	部長（病理診断科）

（様式第 6-3）

風岡宜暁		医師	部長（歯科･口腔外科）
中山享之		医師	部長（中央臨床検査部）
加納秀記		医師	部長（救急診療部）
加藤栄史		医師	部長（輸血部）
牛田享宏		医師	部長（痛みセンター）
山田恭聖		医師	部長（周産期母子医療センター）
（道勇学）		医師	部長（脳卒中センター）
三嶋秀行		医師	部長（臨床腫瘍センター）
久保昭仁		医師	部長（臨床腫瘍センター）
森直治		医師	部長（緩和ケアセンター）
藤田義人		医師	部長（周術期集中治療）
原　政人		医師	部長（脊椎脊髄センター）
福沢嘉孝		医師	部長（先制・統合医療）
深津博		医師	部長（医療情報部）
大西正文		薬剤師	部長（薬剤部）
小寺努		事務職員	部長（病院事務部）
中條孝弘		事務職員	部長（医事管理部）

（様式第 6-3）

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・　公表の方法

・　規程の主な内容
(1)　「事務決裁規程」等において，病院長の人事権限等を明確化している。
(2)　「法人の経理に関する権限の委任及び専決の取扱基準」において，病院長の予算執行権限を明確化している。

・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

〇副院長８名を置いている。

〇病院長の職務を補佐する副院長の役割

一　病院の経営企画に関すること。
二　医療安全管理・院内感染対策に関すること。
三　地域医療連携に関すること。
四　卒後臨床研修・専門医制度に関すること。
五　病院の広報に関すること。
六　救急医療・災害医療に関すること。
七　医療情報の管理・運用に関すること。
八　チーム医療に関すること。
九　看護に関すること。
十　その他病院長が必要と認めた業務

・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

実施時期	ＳＤ名	対象者
調整中	院長・副院長のためのトップマネジメント研修	病院長・副院長
調整中	病院長・幹部セミナー	病院事務部長 医事管理部長
調整中	病院中堅職員育成研修 （医事管理コース） （薬剤部門管理コース） （医療技術部管理コース）	全職種
調整中	『MBA的医療経営』に学ぶメディカルエグゼクティブ育成研修	全職種
調整中	医療経営士資格取得支援	事務職員

（様式第 6-3）

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無

・監査委員会の開催状況：年　２　回

・活動の主な内容：

- 医療安全管理責任者，医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認を実施すること。
- 必要に応じ，理事長又は病院長に対し，医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（　有・無　）

・委員名簿の公表の有無（　有・無　）

・委員の選定理由の公表の有無（　有・無　）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・公表の方法：　ホームページにて公表している。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（〇を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
黒神聰	愛知学院大学	〇	法律学に関する専門知識に基づいて，教育，研究又は業務を行っている者	有・無	1
鳥井彰人	瀬戸旭医師会		医療機関において医療安全に関する業務に従事した経験を持つ者又は医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	有・無	1
鈴木孝美	長久手市・副市長		医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等，医療を受ける立場から意見を述べることができる者	有・無	2
佐藤啓二	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有・無	3
若槻明彦	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有・無	3

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

（様式第 6-3）

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 専門部署として，監査室が設置されており，特定機能病院の管理者としての病院長の業務が法令に適合することを確保するために必要な監査に関することを所掌している。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法

（様式第 6-3）

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営状況の監督については，病院の開設者である理事長を含む『常任理事会』が，定期的に報告される病院運営状況について検討を行い，必要に応じて理事会に報告することで行っている。 ・ 会議体の実施状況（　年 48 回　） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（　有・無　）（　年 46 回　） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　） ・ 公表の方法
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：
会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

（様式第 6-3）

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ） ・通報件数（年０件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ） ・周知の方法 職員用ホームページにて公表している。

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　病院の機能に関する第三者による評価

①　病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名　公益財団法人日本医療機能評価機構 時　期　平成17年10月17日認定　平成22年12月3日認定　平成27年10月17日認定	

（注）医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 方法　リーフレットの配布・掲示　ホームページ　病院広報誌など 内容　当院の医療連携上の役割　前方・後方連携への協力要請など	

3　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・　外来において、循環器内科と心臓外科・血管外科、消化管内科・肝胆膵内科と消化器外科などの関連する診療科を同じブロックに配置し、共同診療に配慮している。 ・　診療科間で依頼箋により情報交換し、専門分野の診療を共同して行っている。入院診療においては、共同カンファレンスを行って診療を行っている。 ・　疾患の必要に応じて、複数の診療科による共同の手術を行っている。 ・　救命救急センターにおいて、救命救急科と専門診療科が毎朝カンファレンスを行い、連携して診療に当たっている。	